J-Clubセミナーについて

J-Clubセミナーは、(一財) 日本科学技術連盟ISO審査 登録センターでISOを認証取得されている組織様 【限定】のサービスとなっております。

J-Club についてのお問合せ

一般財団法人日本科学技術連盟
ISO審査登録センター 管理部 品質保証課
E-mail:j-club@juse.or.jp
TEL:03-5990-5875
FAX:03-5990-5869
在宅(テレワーク)勤務を実施しています。
お問合せは、【メール】でご連絡をいただければ幸いです。

JUSE-ISO Center

Edition of Quality

Service Guide 2025

J-Club Education & Training
J-Hiroba
J-Knowledge

JUSE-ISO CENTERは1995年3月にISO 9000シリーズ・品質システムの審査機関としてスタートしました。多くの審査に取り組み現状約2,100社におよぶ認証登録を行うまでになり、その間、審査を通じて認証組織の成長に寄与すべく、審査の質向上に全力で取り組んでまいりました。

当センターは審査の質向上に留まらず、幅広く認証組織のお役に立ち、マネジメントシステムの質向上をトータルにサポートする機関を目指し、「J-Club」をスタートいたしました。早いもので10年以上が経過、その間多くの皆様にご利用いただき、毎年15,000人以上が参加するまでに成長し、組織の知識、スキルの向上に寄与してきたと自負しております。「JUSE-ISOイコールJ-Club」との認識が認証業界全体にも浸透しております。

組織の事業目的は、顧客ニーズ及び社会の期待に応えることで、信頼を得、選ばれ、利益を創出し、 事業継続を可能にすることです。

顧客及びステークホルダーに製品、サービスを通じてどの様な有益性、価値、経験を提供することが 出来るかが組織の戦略として必要で、それを実現するための組織能力が必要となり、QUALITYをベースとした品質経営の実行が重要視されております。

組織能力で特に重要な要素はヒューマンリソースの活用、マネジメントシステムの確立及び確かな 運用、自社の所属する業界でどれだけ優位性を持った製品、サービスを提供できるかです。

J-Clubでは組織の人々の力量を上げること、それにより組織の力量を向上させ、ヒューマンリソースの活用を有効にすることを目指し、約150コースからなる様々なサービスメニューを提供しております。

マネジメントシステムの有効性を高める「J-Clubマネジメント」。

専門性の高い大学の教授・元教授による「J-Clubアカデミア」。

時官を得たテーマとエクセレントカンパニーの事例をご発表いただく「J-Club講演会」。

改善活動やマネジメント、品質管理の基本をアーカイブで学べる「J-Select |。

コミュニケーションスキル向上に狙いを定めた「J-Hirobal。

マネジメントシステムの改善事例を検索できる「J-ナレッジ」。

80年の間蓄積したJUSEのセミナー、講演会のノウハウを財産としながらも、次の10年に向けた 新たな取り組みを展開し、皆様の期待に応えて参りたいと思っております。

本ガイドに掲載している内容は全て無料です

J-Club セミナー

Overview

J-Club マネジメント ISOマネジメントシステムの運用に有効な要素を、できる限り実践的に学んでいただくセミナーシリーズです。マネジメントシステムの概要解説コース、内部監査員養成コース等、マネジメントシステムの基礎を習得するコースから、経営層・管理者層向けのセミナーまで多くのラインナップをご用意しております。

J-Club アカデミア

大学教授、元教授による、学術的に裏打ちされた内容をわかりやすく解説するセミナーシリーズです。マネジメントシステムの運用に役立つ様々な要素を深く理解することができ、将来のJ-Clubビジネススクールを目指します。

J-Club 講演会

毎年、時宜を得たテーマでご発表いただき大変 ご好評をいただいております。



社会人としての基本とビジネスマナーについて専門のインストラクターに学びます。



品質管理の基礎をはじめ、ビジネスマンに必須のスキルやマネジメント向けの教育など、多彩な講座をアーカイブ配信で受講いただきます。 1講座3時間と短時間ですので、お時間が取れない方でも気軽にご受講いただけます。

J-Hiroba セミナー

インターネットの広がりによりコミュニケーションがより便利に、簡単に取れるようになった反面、本来のより深みのあるコミュニケーションが取りづらい、Face to Faceでのコミュニケーションが苦手といった問題が社会、企業、家庭、生活地域でクローズアップされ、様々な局面で孤立化が進み問題となっています。J-Hirobaでは、コミュニケーションの力量向上にスポットを当て、セミナーを提供しています。自身のコミュニケーション力を高める"場"として、様々な組織との情報交換の"場"としてJ-Hirobaをご活用ください。

小学生を対象としたオンラインセミナーを開催します。夏休みの自由研究にも最適です。SDGs・実験・旅育など多岐にわたるテーマで開催しており、大変好評をいただいております。

キッズ プログラム

J-ナレッジ

日科技連では毎年多くのフォーラム、シンポジウム、大会を開催しており、数多くの事例発表がなされております。「Jーナレッジ」は、各イベントで発表された貴重な事例を検索できるサービスとして登録組織様へ無料でご提供いたします。「工程改善」、「コストダウン」、「人材育成」、「ISOの運用」、「QCサークル」等々、様々なキーワードで検索して、お目当ての事例を閲覧することができます。

 $oldsymbol{3}$

選ばれて います!!

J-Clubセミナー

J-Clubセミナーが 選ばれる



point すべてのセミナーが無料

登録組織様だけすべてのセミナーが無料で受講可能! 組織のレベル向上にお役立てください!

point 多彩なラインナップ

異業種交流や講師に直接質問できる『オンラインセミナー』 いつでもどこでも受講できる『アーカイブセミナー』 100以上のセミナーをご用意

メンバーの能力向上 noint

受講証明書付きセミナーを活用して、メンバーの能力の可視化と モチベーションアップ! 複数名でも受講可能となります。社内教育の一環として

J-Clubセミナーをご活用ください。(一部のセミナーを除く)

J-Clubオンラインセミナーの特徴

point

Zoom開催で全国どこからでも参加可能!

point

わからない点や聞きたかったことが講師に直接質問できる!

point 3

他社の意見や実践方法を聞いて問題解決のヒントを見つける ことができる!

J-Club・J-selectアーカイブセミナーの特徴



2025年度ここが変わります!

カテゴリーごとに選べるようになりました!

「ISO 9001関連」「情報セキュリティ関連」「食品安全」「労働安全」など カテゴリーごとにセミナーを分類し、セミナーを選ぶ際にわかりやすくなりました!

ISO 9001関連

MS共通

食品安全関連

情報セキュリティ関連

自動車産業関連

労働安全衛生

品質管理

人材育成

総合的リスク管理

リーダーシップ・マネジメント その他

06

受職証明書付きアーカイブ。日にち限定アーカイブの視聴期間が 長くなりました!

これまで上記のアーカイブ視聴期間が1日間(9:00~19:00)のみの受講でしたが、 2025年度からは3日間と視聴期間が長くなりました!

業務の中の限られた時間だけではなく、余裕を持って受講いただけるようになりました!

0.3 J-Clubアーカイブセミナーに短編コースが追加されました!

これまでの3時間、5時間コースのセミナーとは別に、新たに1時間コースを設けました! 1時間で視聴が可能となるため、効率よく集中的に学べます!

○ 大幅にラインナップが増えました!

J-Clubオンライン、J-Clubアーカイブ、J-selectアーカイブ合わせて100コース以上の多彩 なラインナップをご用意いたしました。

見たいところだけ見られる! 【講義タイトル別】アーカイブセミナーが増えました!

【講義タイトル別】がついてるセミナーに関しては、1講義の内容をトピックごとに分け視聴 しやすく再編集しました!「全部通して見るには時間がない」「ここだけ見たい」など 知りたい部分だけの視聴が可能です。

受講者の声

数多くのセミナーが揃っているので、社内研修としていつも活用しています。(オンライン)

グループワークを通じて、業種の違う方がどのような事を課題とされているのかを知る事が できて非常に参考になりました。(オンライン)

自分の都合に合わせ途中で一旦止め受講できたり、理解しづらかったところを 繰り返し確認でき、とても効率的に学べました。(アーカイブ)

大人数で何時間も集まることもないので落ち着いて受講できました。 会場に行く手間や費用がかからず、チームで一緒に学ぶことで共通認識ができ、業務が効率化 できそうです。(アーカイブ)

INDEX SERVICE GUIDE 2025

J-Club

J-Club マネジメント	
M-1 ISO 9001 (QMS) 概要解説コース	1509001関連 22
M-2 はじめてのISO 9001·····	150 9001関連 23
M-3 規格の意図と箇条間の関係性を理解する ······	1509001関連 23
M-4 内部監査報告書の書き方と調べ方 [ISO 9001] …	1509001関連 23
M-5 「設計・開発」の捉え方と柔軟な運用 ······	150 9001関連 24
M-6 実務者向け QMS 短編集 (その1) -製造- ········	150 9001関連 24
	150 9001関連 24
M-8 ISO 14001 (EMS) 概要解説コース	15014001関連 25
M-9 環境法規制管理のポイント	15014001関連 25
M-10 はじめてのISO 14001 ·····	15014001関連 26
M-11 自動車 CSMS ISO/SAE 21434対応 ······	自動車産業関連 26
M-12 ISO 22000・FSSC 22000 概要解説コース ········	食品安全関連 26
M-13 食品安全マネジメントシステム内部監査実践コース…	食品安全関連 27
M-14 どうされていますか?食品の微生物検査 (初級編)	
~適切な検査計画のために~	食品安全関連 27
M-15 振り返ってみましょう!食品の微生物検査(中級編)	
~検査結果の正しい理解のために~	食品安全関連 28
M-16 食品工場の新人教育 ·····	食品安全関連 28
M-17 初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方 ·······	食品安全関連 28
M-18 食品安全規格等の基礎知識:60分シリーズ	
キホンの「キ」	食品安全関連 29
M-19 実務に取り込むISO 22000: 2018	食品安全関連 29
M-20 HACCPの基礎知識 ·····	食品安全関連 29
M-21 コンプライアンス担当が見た食品売り場	
(食品表示、栄養表示、優良誤認など)	食品安全関連 30
M-22 必修!基礎から学ぶ食品衛生①	食品安全関連 30
M-23 必修!基礎から学ぶ食品衛生②	食品安全関連 30
M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース	情報セキュリティ関連 31
M-25 ISMSクラウドセキュリティ(ISMS-CS)	
概要解説コース	(機をおりを)を関する 1
M-26 JIS Q 27001: 2023に基づく	
ISMS内部監査員研修 ······	欄村山牙優越 32
M-27 QMS/EMS認証組織のための	
情報セキュリティ入門	情報を対けて関連 33
M-28 ISO/IEC27001: 2022規格改正移行説明会	情報をおりた関連 33
M-29 ISO/IEC27002:2022	
情報セキュリティ管理策の解説	情報をキュリティ関連 33
M-30 プライバシー情報マネジメントシステム	
(ISMS - PIMS) について	情報セキュリティ関連 34
M-31 ISO 45001 (OHSMS) 概要解説コース	労働安全衛生 34
M-32 わかりやすいプロセスアプローチ基礎解説コース …	MS共通 35

M-33 プロセス・マップの作成基	き礎コース	MS共通 35
M-34 内部監査員養成コース (MS	共通)	MS共通 36
M-35 実のあるマネジメントシス	テム活動とするために	MS共通 37
M-36「リスク及び機会」の正し	い捉え方と	
「技術の伝承」の考え方		MS共通 37
M-37 形式的になりがちなマネシ	ブメントシステムの"3つのく t	*者"
実効性からの再考~力量、	文書化、目標~	MS共通 38
M-38 1時間で分かる「業務内容	さISO要求事項」	
購買・外注部門の主な機能	能とISO要求事項 ········	MS共通 38
M-39 1時間で分かる「業務内容	さISO要求事項」	
設計・開発部門の主な機	能とISO要求事項	MS共通 38
M-40 1時間で分かる「業務内容	さISO要求事項」	
営業・企画部門の主な機	能とISO要求事項	MS共通 39
M-41 マネジメントシステムのス	リム化セミナー	MS共通 39
M-42 経営管理とMS規格(箇条	:4:組織の状況)の本質…	MS共通 39
M-43 TQM視点でマネジメント	システム強化と	
内部監査コース		品質管理 40
M-44 品質工学 パラメータ設	†	品質管理 40
M-45 新QC七つ道具概要解説	コース	品質管理 41
M-46 品質工学 (タグチメソッド)概要解説コース	品質管理 41
M-47 新入社員2日間研修 ·····		人材育成 41
M-48 チームメンバーからチーム	リーダーへ	
(3~5年目社員研修)…		人材育成 42
M-49 1on1ミーティングの進めて	5	人材育成 42
M-50 日本型ワーク・エンゲーシ	ジメントを考える	人材育成 43
M-51 今日作って、明日から使う	i	
カンタンすぎる人事評価制	度セミナー	人材育成 43
M-52 サステナブルな人的マネシ	ジメント	人材育成 44
M-53 ハラスメント防止 (全体向	(†)	人材育成 44
M-54 ハラスメント防止 (管理職	向け)	人材育成 44
M-55 失敗学入門編 (日にち限る	セアーカイブ)	総合的リスク管理 45
M-56 リスクマネジメントの基本		総合的リスク管理 45
M-57 BCPの基本 ····································		総合的リスク管理 46
M-58 効果的な是正処置方法と		
ヒューマンエラー対策コー	-z ·····	総合的以2分割 46
M-59 有効な是正処置 具体事	例をもとに考える	総合的リスク管理 47
M-60 IEの基本 ······		総合的リスク管理 47
M-61 VE研修 (1日コース) ·····		総合的リスク管理 47

J-Club アカデミア

A-1	戦略的リスクマネジメント概論	総合的リスク管理 48
A-2	戦略型リーダーになるための経営戦略論	リーターシッフッマネシシント 48

A-3 マネジメントシステム運用に有効な	
KPIの設定とその管理	リーダーシップトマネタン 49
A-4 持続可能な調達に必要なマネジメント (入門編)	サステナビリティ 49
A-5 SDGs入門編: SDGsの概要を学ぶ	ชุวรรษยารา 50
A-6 持続可能なマネジメントシステムと	
バリューチェーン統合による気候変動対応	サステナビリティ 50

J-Club 講演会/キッズプログラム

J-Club	講演会 …	 J-Club講演会	5
K-1 Kidsブ	ログラム …	 キッズ対応	52

J-select (アーカイブセミナー)

S-1 品質管理の基本 ······ 53	
S-2 品質保証の基本 ····· 53	
S-3 問題解決の基本 ····· 54	
S-4 データのとり方・まとめ方 ······ 54	
S-5 やさしいQC手法2 (新QC七つ道具) ······54	
S-6 標準化の基本 ······ 55	
S-7 日常管理の基本 55	
S-8 標準化と日常管理 55	
S-9 方針管理の基本 ······ 56	
S-10 はじめての小集団改善活動	
S-11 はじめての QC サークル推進者 ······ 56	
S-12 未然防止の基本 57	
S-13 品質とヒューマンファクター ······ 57	
S-14 商品企画七つ道具の基礎 ····· 57	
S-15 事業戦略立案 ······ 58	
S-16 はじめての発想法	
S-17 段取り力講座	
S-18 コストマネジメントの基本	

管理の考え方と進め方	59
品質管理教育の進め方	59
TQMの基本 ·····	59
顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動	60
新製品・新サービスの開発管理の基本	60
プロセス保証の基本	60
問題解決の手順	61
ヒューマンファクター視点によるリスクマネジメント	61
マネージャーに聞いてほしい PDCA 指導のポイント ···············	61
身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と	
電子産業におけるESD管理技術	61
	品質管理教育の進め方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

J-Hiroba

H-1 「聞き出す力 (インタビュースキル)」

養成基礎講座 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	コミュニケーションスキル 63
H-2 「伝達する力 (プレゼンスキル)」 養成基礎講座	コミュニケーションスキル 63
H-3 「傾聴する力 (アクティブリスニングスキル)」	
養成基礎講座 ·····	15==5-9503計10 64
H-4 「自己表現する力 (アサーションスキル)」	
養成基礎講座 ·····	15年57-9923年12 64
H-5 「論理的なコミュニケーション」養成基礎講座	コミュニケーションスキル 65
H-6 「セカンドキャリアデザイン」養成基礎講座	コミュニケーションスキル 65
H-7 「セルフマネジメント」養成基礎講座	コミュニケーションスキル 66
H-8 「アンガーマネジメント」養成基礎講座	コミュニケーションスキル 66
H-9 「フォローする力 (フォロワーシップ)」養成基礎講座…	3社三ケージョンスキル 67
H-10 「リードする力 (リーダーシップ)」 養成基礎講座 …	コミュニケーションスキル 67

J-ナレッジ

J- ナレッジのご紹介	

各種講座のお申込み方法 09	よくあるご質問
オンラインセミナー・アーカイブセミナー視聴方法 10	申込早見表
セミナー開催一覧 11	セミナー担当講師紹介
J-Clubアーカイブ一覧 17	日科技連ISO審査登録センターの
J-selectアーカイブ一覧18	オペレーションサービスについて 7

お申込み方法

※一部定員のあるセミナーは、参加人数に関して ご相談させていただく場合があります。

お申込開始日

上期(2025年4月~9月開催分)

2025年3月13日 (木)

下期(2025年10月~2026年3月開催分)

2025年8月28日(木)

J-Clubオンラインセミナー / 受講証明書付きアーカイブ

J-Clubサイトへアクセスし、 ログイン

https://www.juse-iso.jp/member/ログインIDとパスワードを入力してください。

- ※ID・PWは自社の連絡担当者へご確認ください。 (ID・PWの管理は連絡担当者にお願いしております)
- ※連絡担当者がID・PWが不明な場合は、連絡担当 者よりj-club@juse.or.jpまでお問い合わせく ださい。
- 2 ページをスクロールし、 「メニュー」より 「セミナー申込み」をクリック

3 「▼全てのセミナーを見る」を クリックし「セミナー一覧」より、 ご希望のセミナー名を選択

ページ下部「開催日程」にある 「申込み」をクリックし、 該当項目を入力後、最後「送信する」 を押して、申込み完了

※1端末:個人受講

※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

※問題なくお申込が完了した場合は、申込み完了の自動 返信メールが届きます。

セキュリティの関係で迷惑メール等に入る場合もござ いますので、ご注意ください。









J-Club アーカイブ J-select アーカイブ

⇒ お申込み不要

【オンラインセミナー】【アーカイブセミナー】視聴方法

Zoom オンラインセミナー J-Club アーカイブセミナー ※1 年間視聴可能

※複数同時視聴可

J-select アーカイブセミナー ※1年間視聴可能

※複数同時視聴可

STEP1 | 視聴前チェック

下記URLからZOOM接続 テストをお願いします。 ※ビデオ・スピーカー・マイクのテス トを実施してください。 https://zoom.us/test



1週間前に、ZOOMへの 招待メールとテキスト等を 送信いたします。

※事前課題等あるセミナーの 場合は、セミナー前日までに

※受講者様宛

下記URLからご視聴確認をお願いします。 【Google Chrome 最新版・Microsoft Edge最新版・ Mozilla Firefox 最新版からアクセスしてください。】

https://deliveru.jp/pretest5/ 【ID】livetest55 【パスワード】livetest55



STEP2 | ログイン方法・資料のダウンロード

(連絡担当者様宛に送付済の アーカイブ視聴用ID/PWで ログインしてください。)

①デリバルログイン後



(注) ログイン時に視聴できる イベントの表示一覧がで ない場合は、一番画面左 上の「メニュー」より「ロ グアウト」し、再度ログ インを試みてください。 

②アーカイブイベント: J-Clubアーカイブ及びJ-select

③セミナーを選択し、資料をダウンロード後視聴ください。



※視聴画面の右下で 「再生速度」の調整 ができます。

STEP3 | 受講当日

Zoomオンラインセミナー開催日時 30分前より入室可能です。 URLを開きご受講ください。 ご都合の良い日時に ログインし、ご視聴ください。 ご都合の良い日時に ログインし、ご視聴ください。

10

STEP4 | アンケートへのご回答

ご視聴後、一週間以内に アンケートへのご協力を お願いします。 ご視聴後、一週間以内に アンケートへのご協力を お願いします。アンケートは、各視聴ページに載 せているURLへアクセス し、必ずご回答ください。

2025 年度 セミナー開催一覧 アーカイブが1年間視聴可能!

※本年度のオンラインセミナーは、Zoom開催が主流となります。申込方法(P9参照)、視聴方法 (P10参照) 【オンラインセミナー、受講証明書付アーカイブ申込必須】

※都合により、開催地・日程・担当講師が変更になることがございます。

※最少催行人数に達しない場合は、セミナーを中止させていただくことがあります。

※色がついている部分のセミナーはアーカイブ視聴可能です。

12	g.	カテゴリー	共体力	(※重長時間)	2025年 2026年											掲載頁	
セミノ	セミナー名		神神石	含まず) ※講義時間は 目安です。	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	拘蚁只
J-(Club セミナー																
J-C	lub マネジメント	I	1														
M-1	ISO 9001 (QMS) 概要解説コース	150 9001関連	越山	5時間		14日 (水) オンライン											22
M-2	はじめてのISO 9001	ISO 9001関連	越山	1 時間 30分													23
M-3	規格の意図と箇条間の関係性を理解する	50 9001関連	福丸	5時間							21日 (火) オンライン						23
M-4	内部監査報告書の書き方と調べ方 [ISO 9001]	50 9001関連	国府	5時間							'	27日 (木) オンライン					23
M-5	「設計・開発」の捉え方と柔軟な運用	150 9001関連	越山	3時間									'				24
M-6	実務者向けQMS短編集(その1)-製造- NEW	ISO 9001関連	越山	1 時間													24
M-7	実務者向けQMS短編集(その2)-サービス- NEW	50 9001関連	越山	1 時間													24
M-8	ISO 14001 (EMS) 概要解説コース	5014001関連	高橋	5時間		21日 (水) オンライン											25
M-9	環境法規制管理のポイント	5014001関連	高橋	5時間						11日 (木) オンライン							25
M-10	はじめてのISO 14001	5014001関連	高橋	1 時間 30分						₽-	カイブ						26
M-11	自動車CSMS ISO/SAE 21434対応	自動車産業関連	村上	5時間						,	73 1 7						26
M-12	ISO 22000・FSSC 22000概要解説コース	食品安全関連	島袋	5時間					26日 (火) オンライン								26
M-13	食品安全マネジメントシステム内部監査実践コース	食品安全関連	島袋	5時間				8日(火) 受領証明書付オンライン	,								27
M-14	どうされていますか?食品の微生物検査(初級編) ~適切な検査計画のために~	食品安全関連	鈴木	3時間		·			27日 (水) オンライン								27
M-15	振り返ってみましょう!食品の微生物検査(中級編) ~検査結果の正しい理解のために~	食品安全関連	鈴木	3時間											12日 (木) オンライン		28
M-16	食品工場の新人教育	食品安全関連	谷口	3時間													28
M-17	初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方	食品安全関連	見冨	3時間													28
M-18	食品安全規格等の基礎知識:60分シリーズ キホンの「キ」	食品安全関連	谷口 玉置	各1時間													29
M-19	実務に取り込むISO 22000: 2018	食品安全関連	渡辺	3時間													29
M-20	HACCPの基礎知識	食品安全関連	玉置	3時間						アー	カイブ						29
M-21	コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など)	食品安全関連	谷口	3時間													30
M-22	必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! 〜公衆衛生から関連法規の理解まで〜	食品安全関連	渡辺	3時間													30
M-23	必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~	食品安全関連	渡辺	3時間													30
M-24	ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース	情報セキュリティ関連	木村	5時間		15日 (木) オンライン											31
M-25	ISMS クラウドセキュリティ(ISMS-CS)概要解説コース	情報セキュリティ関連	吉田	3時間											3日 (火) オンライン		31
M-26	JIS Q 27001: 2023に基づく ISMS内部監査員研修	情報セキュリティ関連	村上	5時間						12日 (金) 受領証明書付オンライン	v	19日(水)~21日(金) 受領証明書付アーカイフ	7				32
M-27	QMS/EMS認証組織のための情報セキュリティ入門	情報セキュリティ関連	村上	3時間													33
M-28	ISO/IEC27001:2022規格改正移行説明会	情報セキュリティ関連	吉岡	3時間													33

2025 年度 セミナー開催一覧

※本年度のオンラインセミナーは、Zoom開催が主流となります。申込方法(P9参照)、視聴方法(P10参照)

※都合により、開催地・日程・担当講師が変更になることがございます。

※最少催行人数に達しない場合は、セミナーを中止させていただくことがあります。

			(※居	但 及时间	2025年									2026年			10 th T
セミナ	·一名	カテゴリー	※講劇	きまず) 議時間は 安です。	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	掲載頁
J-CI	ub マネジメント																
M-29	ISO/IEC27002: 2022情報セキュリティ管理策の解説	情報セキュリティ関連	村上 5日	時間													33
M-30	プライバシー情報マネジメントシステム(ISMS – PIMS) について	情報セキュリティ関連	吉岡 3月	時間						アーフ	カイブ						34
M-31	ISO 45001 (OHSMS) 概要解説コース	労働安全衛生	高橋 5日	時間													34
M-32	わかりやすいプロセスアプローチ基礎解説コース	MS共通	横沢 5	時間		23日 (金) オンライン											35
M-33	プロセス・マップの作成基礎コース	MS共通	横沢 5	時間			12日 (木) オンライン										35
M-34	内部監査員養成コース (MS共通)	MS共通	横沢 48	時間	21日(月)〜23日(水) 受領証明書付アーカイブ	7	<u>'</u>	24日(木) 受領証明書付オンライン	,		22日(水)~24日(金) 受領証明書付アーカイブ		17日(水)~19日(金) 受領証明書付アーカイス	ī	26日(木) 受領証明書付オンライン	,	36
M-35	実のあるマネジメントシステム活動とするために	MS共通	国府 5日	時間					21日 (木) オンライン		-				_		37
M-36	「リスク及び機会」の正しい捉え方と 「技術の伝承」の考え方	MS共通	国府 5	時間							2日 (木) オンライン						37
M-37	形式的になりがちなマネジメントシステムの "3つのくせ者" 実効性からの再考~力量、文書化、目標~	MS共通	国府 5日	時間									2日(火) オンライン				38
M-38	1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 購買・外注部門の主な機能とISO要求事項	MS共通	国府 1 日	時間													38
M-39	1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 設計・開発部門の主な機能とISO要求事項	MS共通	国府 1 日	時間													38
M-40	1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 営業・企画部門の主な機能とISO要求事項	MS共通	国府 1 日	時間						アー	カイブ						39
M-41	マネジメントシステムのスリム化セミナー	MS共通	国府 5日	時間													39
M-42	経営管理とMS規格(箇条4:組織の状況)の本質	MS共通	福丸 3日	時間													39
M-43	TQM視点でマネジメントシステム強化と内部監査コース	品質管理	丸山 3 ほ	時間		30日 (金) オンライン											40
M-44	品質工学 パラメータ設計 ~効率の良い設計を実現するための手法~	品質管理	越山 3	時間		アー	カイブ	<u>'</u>	29日 (金) オンライン				アーカイブ	'	'		40
M-45	新QC七つ道具概要解説コース	品質管理	高木 3日	時間			5日 (木) オンライン										41
M-46	品質工学(タグチメソッド)概要解説コース	品質管理	越山 3	時間		<u>'</u>	<u>'</u>	<u>'</u>	<u>'</u>	アーフ	カイブ	'	'	<u>'</u>	'		41
M-47	新入社員2日間研修	人材育成	\$イン 65 ノース 2 E	日目: 6時間 日目: 7時間	10日 (木) ~ 11日 (金) オンライン												41
M-48	チームメンバーからチームリーダーへ (3~5年目社員研修)	人材育成	55	時間						2日 (火) オンライン							42
M-49	1on1ミーティングの進め方	人材育成	福島 38	時間			19日 (木) オンライン										42
M-50	日本型ワーク・エンゲージメントを考える	人材育成	福島 36	時間									16日 (火) オンライン				43
M-51	今日作って、明日から使う カンタンすぎる人事評価制度セミナー	人材育成	山本 3 目	時間						25日 (木) オンライン							43
M-52	サステナブルな人的マネジメント ~人手不足に対抗するISO 30414~	人材育成	三浦 3日	時間				アー	カイブ				11日 (木) オンライン		アーカイブ		44
M-53	ハラスメント防止(全体向け) NEW	人材育成	福島 3日	時間	24日 (木) オンライン												44
M-54	ハラスメント防止(管理職向け)NEW	人材育成	福島 5日	時間			3日 (火) オンライン										44
M-55	失敗学入門編	総合的リスク管理	岩松 25	:時間 30分	15日(火)~17日(木) 日にち限定アーカイフ	7					7日(火)~9日(木) 日にち限定アーカイブ			14日(水)~16日(st 日にち限定アーカイ	金) ブ		45
M-56	リスクマネジメントの基本	総合的リスク管理	村上 4日	時間						アーカイブ							45

2025 年度 セミナー開催一覧

※本年度のオンラインセミナーは、Zoom開催が主流となります。申込方法(P9参照)、視聴方法(P10参照)

※都合により、開催地・日程・担当講師が変更になることがございます。

※最少催行人数に達しない場合は、セミナーを中止させていただくことがあります。

セミナー名 カテゴリー			-# <i>f</i> C <i>b</i>	講義時間	_{韓国} 2023年							H井/王				
セミア	·一名	カテゴリー	講師名	含まず) ※講義時間は 目安です。	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 3月	掲載頁
J-CI	ub マネジメント															
M-57	BCPの基本	総合的リスク管理	村上	3時間 30分						アー	カイブ					46
M-58	効果的な是正処置方法とヒューマンエラー対策コース	総合的リスク管理	丸山	3時間				11日 (金) オンライン						27日 (火) オンライン		46
M-59	有効な是正処置 具体事例をもとに考える	総合的リスク管理	横沢	5時間					アーカイブ					21日 (水) オンライン		47
M-60	IEの基本 NEW	総合的リスク管理	木内	3時間						8日 (月) オンライン						47
M-61	VE研修(1日コース) NEW	総合的リスク管理	丹澤	5時間								6日 (木) オンライン				47
J-CI	ub アカデミア														'	
A-1	戦略的リスクマネジメント概論	総合的リスク管理	神田	5時間											4日(水) オンライン	48
A-2	戦略型リーダーになるための経営戦略論	リーダーシップ・マネジメント	神田	5時間				2日 (水) オンライン								48
A-3	マネジメントシステム運用に有効なKPIの設定とその管理	リーダーシップ・マネジメント	近藤	5時間			27日 (金) オンライン									49
A-4	持続可能な調達に必要なマネジメント(入門編)	サステナビリティ	近藤	5時間			13日 (金) オンライン									49
A-5	SDGs入門編:SDGsの概要を学ぶ	サステナビリティ	近藤	5時間	18日 (金) オンライン											50
A-6	持続可能なマネジメントシステムとバリューチェーン統合 による気候変動対応	サステナビリティ	近藤	5時間				30日 (水) オンライン								50
J-CI	ub講演会/キッズプログラム	'				'	'			'	'	·			,	
	J-Club講演会	J-Club講演会	未定	未定												51
K-1	Kidsプログラム	キッズ対応	坂田	1時間30分					2日 (土) オンライン							52
J-Hi	roba														'	
H-1	「聞き出す力(インタビュースキル)」養成基礎講座 ~内部監査の面談を想定した実践ロールプレイ~	コミュニケーションスキル	浅川	5時間		28日 (水) オンライン										63
H-2	「伝達する力(プレゼンスキル)」養成基礎講座 〜プレゼンの3つの視点と自己紹介を題材にした実践演習〜	コミュニケーションスキル	浅川	5時間			25日 (水) オンライン									63
H-3	「傾聴する力 (アクティブリスニングスキル)」養成基礎講座 ~傾聴による関係の構築と基本技法の理解~	コミュニケーションスキル	浅川	5時間				16日 (水) オンライン								64
H-4	「自己表現する力(アサーションスキル)」養成基礎講座 ~アサーティブなコミュニケーションの理解と実践~	ヨミュニケーションスキル	浅川	5時間						17日 (水) オンライン						64
H-5	「論理的なコミュニケーション」養成基礎講座 ~ロジカルに話す力の基礎を学びフレームワークで強化する~	ヨミュニケーションスキル	浅川	5時間							15日 (水) オンライン					65
H-6	「セカンドキャリアデザイン」養成基礎講座 〜人生100年時代における後半戦のキャリアデザイン〜	ヨミュニケーションスキル	浅川	5時間								12日 (水) オンライン				65
H-7	「セルフマネジメント」養成基礎講座 ~確実な成果を上げるために必要なこと~	ヨミュニケーションスキル	浅川	5時間									3日 (水) オンライン			66
H-8	「アンガーマネジメント」養成基礎講座 ~心理学や心理療法等から学ぶ怒りのコントロール法~	ヨミュニケーションスキル	浅川	5時間										28日 (水) オンライン		66
H-9	「フォローする力(フォロワーシップ)」養成基礎講座 ~フォロワーシップスタイル診断&実践エクササイズ~	コミュニケーションスキル	浅川	5時間											18日 (水) オンライン	67
H-10	「リードする力(リーダーシップ)」養成基礎講座 〜ヨコの関係強化と権限なき新たなリーダーシップ〜	コミュニケーションスキル	浅川	5時間											11日 (水 オンライン	67

2025年度 J-Clubアーカイブ一覧

視聴期間: 2025年4月~2026年3月(1年間)

下記の複数のアーカイブセミナーを何種類でも、何回でも無料で視聴することができます。

- ※複数同時視聴可
- ※ J-Clubアーカイブセミナーは、申込不要です。
- ※連絡担当者様宛に送付済のアーカイブ視聴用ID/PWでログインしてください。
- ※録画した内容をご視聴いただくため、若干映像の乱れ・音声の不具合がございますが、ご了承ください。

申込み不要/事前送付視聴用·ID·PW でご覧ください。

M-5	視聴時間 掲 セミナー名 **視聴時間は 載 _{自安です。} も				セミ	ナー名	視聴時間 ※視聴時間は 目安です。	-1-15
M-2 はじめてのISO 9001 1時間 30分	J-Club (アーカイブセミナー)					Club(アーカイブセミナー)		
M-2 はじめてのISO 9001 15時間 30分 23 M-4 内部監査報告書の書き方と調べ方 [ISO 9001 5時間 23 M-4 内部監査報告書の書き方と調べ方 [ISO 9001 5時間 24 M-5 下設計・開発上の設え方と柔軟な運用 3時間 24 M-6 実務者向けQMS短編集 (その1) 一製造一 5時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集 (その2) 一サービス 5時間 25 M-8 ISO 14001 (EMS) 概要解説コース 5時間 25 M-9 環境法規制管理のポイント 5時間 25 M-10 はじめてのISO 14001 15時間 26 M-11 自動車CSMS ISO/SAE 21434対応 5時間 26 M-12 ISO 22000・FSSC 22000模要解説コース 5時間 26 M-14 でうさましょう 食品の微生物検査 (初版編) ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	M-1	ISO 9001 (QMS) 概要解説コース	5時間	22	M-26		5時間	32
M-3 規格の意図と箇条間の関係性を理解する 5時間 23 M-4 内部監査報告書の書き方と調べ方[ISO 9001] 5時間 23 M-5 [設計・開発] の捉え方と柔軟な選用 3時間 24 M-6 実務者向けQMS短編集 (その1) 一製造	M-2	 はじめてのISO 9001		23	141 20	ISMS内部監査員研修	Ordibl	32
M-4 内部監査報告書の書き方と調べ方[ISO 9001] 5時間 23 M-5 [設計・開発]の契え方と素軟な連用 3時間 34 M-6 実務者向けQMS短編集(その1) 一製造 1 時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集(その1) 一製造 2 1 1 時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集(その2) サービス 1 1 時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集(その2) サービス 1 1 時間 2 2 M-8 ISO 14001 (EMS) 柳実解説 1 2 5 時間 3	M-3	担格の音図と簡条間の関係性を理解する		23	M-27		3時間	33
M-5 「設計・開発」の捉え方と柔軟な連用 3時間 24 M-6 実務者向けQMS短編集 (その1) 一製造 □ 1時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集 (その2) ーサービスー ② 1時間 24 M-8 ISO 14001 (EMS) 柳要解説コース 5時間 25 M-9 環境法規制管理のボイント 5時間 25 M-10 はじめてのISO 14001 30分 46 30分 30分 46 30分 30分 30分 30分 30分 30分 46 30分 30					M-28		3時間	33
M-6 実務者向けQMS短編集 (その1) - 製造 1時間 24 M-7 実務者向けQMS短編集 (その2) - サービス 1時間 24 M-8 ISO 14001 (EMS) 概要解説コース 5時間 25 M-9 環境法規制管理のポイント 5時間 25 M-10 はじめてのISO 14001 1時間 26 M-11 自動車 CSMS ISO/SAE 21434対応 5時間 26 M-12 ISO 22000・FSSC 22000 概要解説コース 5時間 36 M-12 ISO 22000・FSSC 22000 概要解説コース 5時間 36 M-12 ISO 22000・FSSC 22000 概要解説コース 5時間 36 M-14 どうされていますが食品の微生物検査 (初級編) 26 ペ複室結果の正しい理解のために 26 W-16 Real Real Real Real Real Real Real Real					M 20	ISO/IEC27002 : 2022	5時間	22
M-30					141-27	情報セキュリティ管理策の解説	Ordin	33
M-8 ISO 14001 (EMS) 概要解説コース 5時間 25 15時間 26 15時間 27 25時間 26 15時間 27 25時間 26 15時間 27 25時間 26 15時間 27 25時間 25					M-30		3時間	34
M-9					M-31	ISO 45001 (OHSMS) 概要解説コース	5時間	34
M-10 はじめてのISO 14001					M-32	わかりやすいプロセスアプローチ基礎解説コース	5時間	35
M-10 はしめ (のISO 14001 30分 29	141-7	塚児仏が町自住のホーント		23	M-33	プロセス・マップの作成基礎コース	5時間	35
M-12 ISO 22000 · FSSC 22000 概要解説コース 5時間 26 1	M-10	はじめてのISO 14001		26	M-34	内部監査員養成コース(MS共通)	4時間	36
M-12 ISO 22000・FSSC 22000 極要解説コース Siefill 26 M-14 どうされていますか?食品の微生物検査 (初級編)	M-11	自動車 CSMS ISO/SAE 21434対応	5時間	26	M-35	実のあるマネジメントシステム活動とするために	5時間	37
M-14 ~適切な検査計画のために~ 3時間 27	M-12	ISO 22000・FSSC 22000概要解説コース	5時間	26	M-36		5時間	37
M-15 一次	M-14		3時間	27	M-37		5時間	38
M-16 食品工場の新人教育 3時間 28 3時間 28 M-17 初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方 3時間 28 M-18 食品安全規格等の基礎知識:60分シリーズ キホンの「キ」 41時間 29 29 M-20 HACCPの基礎知識 3時間 39 39 39 39 39 39 39 3	M-15		3時間	28				
M-18 食品安全規格等の基礎知識: 60分シリーズ キホンの「キ」 各1時間 29 M-19 実務に取り込むISO 22000: 2018 3時間 29 M-20 HACCPの基礎知識 3時間 29 M-21 コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など) 3時間 30 M-22 必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-23 必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-16		3時間	28	M-38	1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 購買・外注部門の主な機能とISO要求事項	1 時間	38
M-18 食品安全規格等の基礎知識: 60分シリーズ キホンの「キ」 各1時間 29 M-19 実務に取り込むISO 22000: 2018 3時間 29 M-20 HACCPの基礎知識 3時間 29 M-21 コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など) 3時間 30 W6! 基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-22 必修! 基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-17	初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方	3時間	28	M-39	NEW	1 時間	38
M-19実務に取り込むISO 22000: 20183時間 29M-20HACCPの基礎知識3時間 29M-21コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など)3時間 30必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~3時間 30M-23必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~3時間 30M-24ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 313時間 31M-25ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 3131	M-18		各1時間	29	M-40	1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」	1 時間	39
M-20 HACCPの基礎知識 3時間 29 M-21 コンプライアンス担当が見た食品売り場(食品表示、栄養表示、優良誤認など) 3時間 30 M-22 必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-23 必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 M-24 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-19	実務に取り込むISO 22000: 2018	3時間	29	M 41		C D土門	20
M-21 コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など) 3時間 30 M-22 必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-23 必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 M-24 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-20	HACCPの基礎知識	3時間	29				37
M-22 必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 30 M-44 ~効率の良い設計を実現するための手法~ 3時間 40 M-46 品質工学(タグチメソッド)概要解説コース 3時間 41 3時間 41 M-23 必修!基礎から学ぶ食品衛生② 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 30 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31 M-27 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-21		3時間	30	M-42	(箇条4:組織の状況)の本質	3時間	39
M-23	M-22		3時間	30		~効率の良い設計を実現するための手法~		40
M-23 必修!基礎から学ぶ良品衛生(2) 食品衛生責任者を超える力量が得られます! ~公衆衛生から関連法規の理解まで~ 3時間 30 M-52 ~人手不足に対抗するISO 30414 ~ 44 M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 31 M-56 リスクマネジメントの基本 4時間 45 M-57 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 31 35時間 30分 46			5 31-3		M-46		3時間	41
M-24 ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース 5時間 31 31 M-25 ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 3時間 31	M-23	食品衛生責任者を超える力量が得られます!	3時間	30		~人手不足に対抗するISO 30414 ~		44
M-57 BCPの基本 30分 46 30分 46			E 0405	0.1	M-56	リスクマネジメントの基本		45
M-25 * * * * * * * * * * * * * * * * *	M-24		5時間	31	M-57	BCPの基本		46
	M-25		3時間	31	M-59	有効な是正処置 具体事例をもとに考える	5時間	47

J-Club/J-select 視聴方法

申込不要/複数同時視聴可

アーカイブセミナーは何種類でも 何回でも無料でご視聴いただけます。

STEP 1

アーカイブ視聴専用 サイト『Deliveru』 ヘアクセスし、 ログイン https://deliveru.jp/ 参加者IDとパスワード を入力してください。



※ID・PWは自社の連絡担当者へご確認ください。 (ID・PWの管理は連絡担当者にお願いしております) ※連絡担当者がID・PWが不明な場合は、連絡担当者より j-club@juse.or.jp までお問い合わせください。

STEP 2

「アーカイブイベント」より 「【1年間見放題】

●年度 J-Club アーカイブ」もしくは「【1年間見放題】

●年度 J-select アーカイブ」 をクリック



※ログイン後、視聴できるイベントの表示が出ない場合は、 一度画面左上の「メニュー」より一度「ログアウト」の上 再度ログインを試みて下さい。

STEP 3

アーカイブイベント 一覧より、ご希望の セミナーを選択

※講師よりアーカイブの 許可を得られている セミナーのみ、一覧に 加えています。



STEP 4

再生ボタンを押して ご視聴ください。

※ 視聴後はアンケート へのご回答もよろしく お願いします。 (J-Clubアーカイブのみ)



※「資料ダウンロード」より資料のダウンロードが可能です。
※視聴画面の右下で「再生速度」の調整ができます。
※視聴後、アンケートへのご協力もお願いします。

2025年度 J-selectアーカイブ一覧

視聴期間: 2025年4月~2026年3月(1年間)

下記の複数のアーカイブセミナーを何種類でも、何回でも無料で視聴することができます。

- ※複数同時視聴可
- ※ J-select アーカイブセミナーは、申込不要です。
- ※連絡担当者様宛に送付済のアーカイブ視聴用ID/PWでログインしてください。 ※録画した内容をご視聴いただくため、若干映像の乱れ・音声の不具合がご

ざいますが、ご了承ください。

申込み不要/事前送付視聴用·ID·PW でご覧ください。

大学学院 1985	٠٠٧٠	P女/争时还内犹视用"D"FW(C	- 56 1/0	- C v
S-1品質管理の基本3時間53S-2品質保証の基本3時間54S-3問題解決の基本3時間54S-4データのとり方・まとめ方3時間54S-5やさしいQC手法2(新QC七つ道具)3時間54S-6標準化の基本3時間55S-7日常管理の基本3時間55S-8標準化と日常管理3時間56S-9方針管理の基本3時間56S-10はじめての小集団改善活動3時間56S-11はじめての保力ークル推進者3時間56S-12未然防止の基本3時間57S-13品質とヒューマンファクター3時間57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間57S-15事業戦略立案3時間58S-16はじめての発想法3時間58S-17段取り力講座3時間58S-18コストマネジメントの基本3時間59S-20品質管理教育の進め方3時間59S-21TQMの基本3時間59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動3時間60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間60S-24プロセス保証の基本3時間61S-25問題解決の手順3時間61S-26メントストーン・アートに関いてほしいPDCA指導のボイント3時間61S-26東近な静電分配(ESD) による不具合現象と	せミ	ナー名	※視聴時間は	掲載頁
S-2 品質保証の基本 3時間 53 S-3 問題解決の基本 3時間 54 S-4 データのとり方・まとめ方 3時間 54 S-5 やさしいQC手法2(新QC七つ道具) 3時間 54 S-6 標準化の基本 3時間 55 S-7 日常管理の基本 3時間 55 S-8 標準化と日常管理 3時間 56 S-10 はじめての小集団改善活動 3時間 56 S-11 はじめてのQCサークル推進者 3時間 56 S-12 未然防止の基本 3時間 57 S-13 品質とヒューマンファクター 3時間 57 S-14 商品企画セつ道具の基礎 3時間 57 S-15 事業戦略立案 3時間 58 S-16 はじめての発想法 3時間 58 S-17 段取り力講座 3時間 58 S-18 コストマネジメントの基本 3時間 59 S-19 管理の考え方と進め方 3時間 59 S-20 品質管理教育の進め方 3時間 59 S-21 TQMの基本 3時間 59 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ピューマンファクター視点によるリスクマネジ 3時間 61 S-26 ピューマンファクター視点によるリスクマネジ 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイント、3時間 61 S-28 身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 0 1世間 61	J-s	elect (アーカイブセミナー)		
S-3 問題解決の基本 3時間 54 S-4 データのとり方・まとめ方 3時間 54 S-5 やさしいQC手法2 (新QC七つ道具) 3時間 55 S-6 標準化の基本 3時間 55 S-7 日常管理の基本 3時間 55 S-8 標準化と日常管理 3時間 55 S-9 方針管理の基本 3時間 56 S-10 はじめての小集団改善活動 3時間 56 S-11 はじめてのQCサークル推進者 3時間 56 S-12 未然防止の基本 3時間 57 S-13 品質とヒューマンファクター 3時間 57 S-14 商品企画七つ道具の基礎 3時間 57 S-15 事業戦略立案 3時間 58 S-16 はじめての発想法 3時間 58 S-17 段取り力講座 3時間 58 S-18 コストマネジメントの基本 3時間 59 S-19 管理の考え方と進め方 3時間 59 S-20 品質管理教育の進め方 3時間 59 S-21 TQMの基本 3時間 60 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 61 S-25 問題解決の手順 59 S-26 メント	S-1	品質管理の基本	3時間	53
S-4データのとり方・まとめ方3時間 54S-5やさしいQC手法2 (新QCせつ道具)3時間 54S-6標準化の基本3時間 55S-7日常管理の基本3時間 55S-8標準化と日常管理3時間 56S-9方針管理の基本3時間 56S-10はじめての小集団改善活動3時間 56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 57S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画セつ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ピューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-26ピューマンファクター視点によるリスクマネジ ストーに関いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに関いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-28身近な辞電気放棄(ESD) による不具合現象と	S-2	品質保証の基本	3時間	53
S-5やさしいQC手法2 (新QC 七つ道具)3時間 54S-6標準化の基本3時間 55S-7日常管理の基本3時間 55S-8標準化と日常管理3時間 55S-9方針管理の基本3時間 56S-10はじめての小集団改善活動3時間 56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 57S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-21TQMの基本3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ピューマンファクター視点によるリスクマネジ ストント3時間 61S-26ピューマンファクター視点によるリスクマネジ ストント3時間 61S-26ピューマンファクター視点によるリスクマネジ ストト3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ ストランスを対象と3時間 61S-28身近な辞電気放棄(ESD) による不具合現象と2008年間 61	S-3	問題解決の基本	3時間	54
S-6標準化の基本3時間55S-7日常管理の基本3時間55S-8標準化と日常管理3時間55S-9方針管理の基本3時間56S-10はじめての小集団改善活動3時間56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間56S-12未然防止の基本3時間57S-13品質とヒューマンファクター3時間57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間57S-15事業戦略立案3時間58S-16はじめての発想法3時間58S-17段取り力講座3時間58S-18コストマネジメントの基本3時間59S-19管理の考え方と進め方3時間59S-20品質管理教育の進め方3時間59S-21TQMの基本3時間59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動3時間60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間60S-24プロセス保証の基本3時間60S-25問題解決の手順3時間61S-26とコーマンファクター視点によるリスクマネジント3時間61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間61S-28身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と2015間62	S-4	データのとり方・まとめ方	3時間	54
S-7日常管理の基本3時間 55S-8標準化と日常管理3時間 55S-9方針管理の基本3時間 56S-10はじめての小集団改善活動3時間 56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 57S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26とコーマンファクター視点によるリスクマネジ ストント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間 61	S-5	やさしいQC手法2(新QC七つ道具)	3時間	54
S-8標準化と日常管理3時間55S-9方針管理の基本3時間56S-10はじめての小集団改善活動3時間56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間56S-12未然防止の基本3時間57S-13品質とヒューマンファクター3時間57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間57S-15事業戦略立案3時間58S-16はじめての発想法3時間58S-17段取り力講座3時間58S-18コストマネジメントの基本3時間59S-20品質管理教育の進め方3時間59S-21TQMの基本3時間59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動3時間60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間60S-24プロセス保証の基本3時間60S-25問題解決の手順3時間61S-26メントスーマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ ント3時間61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ ント3時間61	S-6	標準化の基本	3時間	55
S-9方針管理の基本3時間 56S-10はじめての小集団改善活動3時間 56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 56S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ヒューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61	S-7	日常管理の基本	3時間	55
S-10はじめての小集団改善活動3時間 56S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 56S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26とコーマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61	S-8	標準化と日常管理	3時間	55
S-11はじめてのQCサークル推進者3時間 56S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 603時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26とコーマンファクター視点によるリスクマネジメント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイント3時間 61	S-9	方針管理の基本	3時間	56
S-12未然防止の基本3時間 57S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 58S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 59S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ヒューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61	S-10	はじめての小集団改善活動	3時間	56
S-13品質とヒューマンファクター3時間 57S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ヒューマンファクター視点によるリスクマネジ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のボイ 3時間 61	S-11	はじめてのQCサークル推進者	3時間	56
S-14商品企画七つ道具の基礎3時間 57S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 59S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27タ近な辞電気放電(ESD)による不具合現象と 3時間 61	S-12	未然防止の基本	3時間	57
S-15事業戦略立案3時間 58S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27タ近な辞電気放電(ESD)による不具合現象と 20は間 (41)	S-13	品質とヒューマンファクター	3時間	57
S-16はじめての発想法3時間 58S-17段取り力講座3時間 58S-18コストマネジメントの基本3時間 59S-19管理の考え方と進め方3時間 59S-20品質管理教育の進め方3時間 59S-21TQMの基本3時間 59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間 60S-24プロセス保証の基本3時間 60S-25問題解決の手順3時間 61S-26ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61	S-14	商品企画七つ道具の基礎	3時間	57
S-17 段取り力講座 3時間 58 S-18 コストマネジメントの基本 3時間 59 S-19 管理の考え方と進め方 3時間 59 S-20 品質管理教育の進め方 3時間 59 S-21 TQMの基本 3時間 59 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ピューマンファクター視点によるリスクマネジメント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61	S-15	事業戦略立案	3時間	58
S-18 コストマネジメントの基本 3時間 59 S-19 管理の考え方と進め方 3時間 59 S-20 品質管理教育の進め方 3時間 59 S-21 TQMの基本 3時間 59 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 3時間 61 S-25 問題解決の手順 3時間 61 3時間 61 S-26 ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61 3時間 61 S-20 身近な静電気放電 (ESD) による不具合現象と 3時間 61	S-16	はじめての発想法	3時間	58
S-19管理の考え方と進め方3時間59S-20品質管理教育の進め方3時間59S-21TQMの基本3時間59S-22顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動3時間60S-23新製品・新サービスの開発管理の基本3時間60S-24プロセス保証の基本3時間60S-25問題解決の手順3時間61S-26ヒューマンファクター視点によるリスクマネジメント3時間61S-27マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント3時間61S-20身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と3時間61	S-17	段取り力講座	3時間	58
S-20 品質管理教育の進め方 3時間 59 S-21 TQMの基本 3時間 59 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 S-20 身近な静電気放電 (ESD) による不具合現象と 3時間 61	S-18	コストマネジメントの基本	3時間	59
S-21 TQMの基本 3時間 59 S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ビューマンファクター視点によるリスクマネジ メント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 2時間 61 S-27 シージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイ 3時間 61 S-28 身近な静電気放電 (ESD) による不具合現象と 20は間 61	S-19	管理の考え方と進め方	3時間	59
S-22 顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動 3時間 60 S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ビューマンファクター視点によるリスクマネジメント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 S-29 身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 20時間 61	S-20	品質管理教育の進め方	3時間	59
S-23 新製品・新サービスの開発管理の基本 3時間 60 S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ビューマンファクター視点によるリスクマネジメント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 S-29 身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 3時間 61	S-21	TQMの基本	3時間	59
S-24 プロセス保証の基本 3時間 60 S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ヒューマンファクター視点によるリスクマネジメント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 C-20 身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 2015間 61	S-22	顧客価値を創造するマネージャーの役割と行動	3時間	60
S-25 問題解決の手順 3時間 61 S-26 ヒューマンファクター視点によるリスクマネジメント 3時間 61 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 61 61	S-23	新製品・新サービスの開発管理の基本	3時間	60
S-26 ヒューマンファクター視点によるリスクマネジ 3時間 61 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 61 61 61 61 61 61 61 61 61 61 61 61	S-24	プロセス保証の基本	3時間	60
S-20 メント 3時間 01 S-27 マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント 3時間 61 61 01 61	S-25	問題解決の手順	3時間	61
3-27 ント 3時間 01 cool 身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 0 m + 間 7.4	S-26	メント	3時間	61
S-28 身近な静電気放電 (ESD) による不具合現象と 3時間 61	S-27		3時間	61
	S-28	身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 電子産業におけるESD管理技術	3時間	61

よくあるご質問

J-Clubサイトへのログインについて

Q. J-Clubサイトにアクセスできません。

J-Clubサイトにアクセスするには、IDとパスワードが必要です。

各組織のMSごとにIDとパスワードを発行しております。連絡担当者様へ管理をお願いしておりますので、自組織の連絡担当者様へお尋ねください。

連絡担当者様がID・パスワードがわからない場合は、連絡担当者様がJ-Club事務局(j-club@juse.or.jp)へお問い合わせください。その際は、各MSの登録番号(例:JUSE-RA-0000)も合わせてお知らせください。

お申込みについて

Q. 誰でも申し込めますか?

認証対象範囲内の方々に限定しています。

Q. J-Clubアーカイブセミナーは申込が必要ですか?

J-Club アーカイブセミナー・J-select アーカイブセミナーの<u>お申込みは不要</u>です。アーカイブ視聴プラットフォーム「デリバルサイト」で「デリバルサイト」用のID・パスワードでサインインの上ご受講ください。

なお、J-Club オンラインセミナー・日にち限定アーカイブ・受講証明書付きアーカイブはお申込みが必要になります。

O. 何名まで申込できますか?

申込の入力は、1度に10名様まで可能です。11名以上の場合は、分けてお申し込みください。また、セミナーにより 定員が異なります。各セミナーページ(p.22以降)の定員欄をご確認ください。セミナーにより、1組織当たりの参加 人数に制限を設けているセミナーもございますのでご注意ください。

O. 1台のパソコンで複数名受講しますが、代表者1名のみの申し込みでよいですか?

いいえ。受講者人数分のお申込みをお願いいたします。申込時の連絡事項欄に、「パソコン1台で○名受講します」と ご入力をお願いいたします。セミナー当日は、代表の方のお名前(○名)という表記でお願いいたします。参加者の 内訳に関しては、事務局からお伺いする場合もございます。

セミナーの受講者変更・キャンセルについて

Q. 受講者を変更したいのですが…

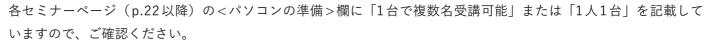
J-Club事務局(j-club@juse.or.jp) ヘメールでご連絡ください。その際は、変更前と変更後の受講者の氏名(フリガナ)・メールアドレスを必ずご連絡ください。

Q. 受講をキャンセルできますか?

原則、当日の無断キャンセルはお断りしております。キャンセルする場合は、速やかにJ-Club事務局(j-club@juse.or.jp) ヘキャンセルする「セミナー名」と「受講者名」をご連絡ください。

セミナー受講について

Q. 1台のパソコンで複数名受講できますか?



「1台で複数名受講可能」と記載のあるセミナーは、社内セミナーとしてプロジェクターなどに投影して複数名でご受講いただくことも可能です。

複数名でご受講の場合でも、お申込みは受講人数分お申込みください。申込時の連絡事項欄に、「パソコン1台で〇名 受講します」とご入力をお願いいたします。セミナー当日は、代表の方のお名前(〇名)という表記でお願いいたします。 参加者の内訳に関しては、事務局からお伺いする場合もございます。

グループワークのあるセミナー、受講証明書付きアーカイブは原則「1人1台」での受講となります。

Q. セミナー受講時期が近づいても案内が届きません。

セミナー開催日の約1週間前にJ-Club事務局(j-club@juse.or.jp)から開催の案内をメールでご連絡いたします。 事前にドメインなどの受信設定をお願いいたします。

受講案内が、迷惑メールに振り分けられている場合もございますので、ご確認いただき、それでも開催の案内が届いていない場合は、J-Club事務局(j-club@juse.or.jp)までご連絡ください。

セミナーに使用するツールやZoomについて

Q. Zoomを使ったことがありませんが、受講は簡単にできますか?

初めてZoomをご利用の方でも、気軽にご受講可能です。Zoomのアプリケーションを事前にパソコンへインストールいただいた方がスムーズに受講ができます。(アプリをインストールせずインターネットブラウザでも受講可能。)

Q. アーカイブセミナー視聴の際、社内でオンラインツールを使用した視聴は可能ですか?

可能です。各組織に合ったオンラインツールをご使用いただき、ご活用ください。

その他

Q. MS共通の内部監査員コースと、ISMS/FSMSの内部監査員のコースの違いを教えてください。

コース名の通りですが、MSに限らず内部監査員に必要な要件を研修するコースとその中でもISMSとFSMSの要求事項に特化したコースです。

Q. 内部監査員養成コースを受講したら内部監査員として認定されますか?

内部監査員養成コースは、内部監査員の認定セミナーではございません。「内部監査員の認定」は、各組織様で 定められている規定やルールによります。

例えば「本コース受講済みの従業員を内部監査員として認定する」と自社の内部監査規定に既定されている組織様も いらっしゃいます。

申込早見表

	J-Club オンラインセミナー	J-Club 日にち限定 アーカイブ	J-Club 受講証明書付 アーカイブ	J-Club J-select アーカイブ
お申込み	必 ※社内セミナーと 全員申し込み必須 (備考に社内セミ	して受講される方も 須	必須	不要
申込み人数	制限なし ※一部セミナーは 制限あり	制限	-	
定員	セミナーにより 定員あり	制限	制限なし ※1つのIDで複数同 時視聴可能 ※複数名で社内セミ ナーとして視聴い ただくことも可能 です。	
受 講 方 法	Zoom ※セミナーにより URLが異なります	Zoom ※理解度テストは Deliveru (デリバル)	veru バル) eliveru.jp/	
受講可能期間	開催日のみ	31	1年間 ※アーカイブ更新の際は、デリバルトップ画面でお知らせします。	
端末の準備	1 台で複数名 受講可能 ※一部グループ ワークがある セミナーは1人1台	1 台で複数名 受講可能	1人1台 ※理解度テスト 受験のため	1 台で複数名 受講可能

J-Club マネジメント 全61コース

M-1 ISO 9001 (QMS) 概要解説コース

ISO 9001関連

アーカイブ

参加対象者	●ISO推進事務局になられた方 ●品質	マネジメント	システムの基礎を学	びたい方	
コース概要	品質マネジメントシステム (ISO9001:2015)の概要について、誰もが経験する身の周りの出来事に置き換えて、分かりやすくご説明します。				
プログラム	 マネジメントシステムとISO規格 ISO 9000ファミリーとISO 9001 品質マネジメントの原則 品質とは何か? マネジメントシステムの意義 		⑥ 組織(部門)の機能を考える⑦ QMS運用の主目的⑧ 規格構造とその背景⑨ 主な規格要求事項⑩ 認証機関と最近の認証動向		
予定講師	越山 卓		定員	100名	
ΠΦ	開催日		時間	申込締切日	
日程	2025年5月14日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年5月6日 (火)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

- VOICE 参加者の声

 ▶組織力向上の方法をご説明頂き、それに伴う具体例を提示して頂いたことで、理解しやすかった。
 ▶たとえ話を多く盛り込んだセミナーで理解しやすく、それこそが認識の原則の内容にリンクしている部分もあって構成も勉強になりました。
 ▶今回のように精通していて、おそらく現場や現状もわかっており、さらに、なんとか組織を良くしたいという気概のある方が講師、血が通っていました、良かったです!!

はじめてのISO 9001

ISO 9001関連

参加対象者	●初めてISOの担当になられた方 ●ISO9001の基本	k的な内容を知りた(ハ方 ●新入社員の方		
コース概要	本セミナーは、ISO9001 品質マネジメントシステムにはじめて触れる方の、 ① ISO9001 って何?② 何故 ISO9001 が必要なのか?③ 品質マネジメントシステム(QMS)を構築するってどういうこと?④ ちょっと規格を読んだけど用語が分かり難くて頭が痛くなった…⑤ ISO9001 を適用した身近な事例が知りたい!といった疑問・不満を解消するために、短時間でISO9001 の概要を解説するものです。				
プログラム	① ISO9001 とは何か ④ 用語の意味を分かり易く解説 ② なぜISO9001 が必要なのか ⑤ ISO9001 を適用した身近な事例				
予定講師	越山卓	視聴時間	1 時間 30 分		
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能		

VOICE 参加者の声

- ▶なかなか気づかない、説明されない箇所(序文、用語など)について、丁寧な説明があり、初心者にも分かりやすく理解できました。
- ▶規格は物差し、仕組みは2W1H、などISOの基本から再認識できて良かったです。前より自信を持って業務や内部監査に務められそうです。
- ▶初めてISO9001について勉強しています。ISOとはから説明いただき非常にわかりやすかった。ISO9001が難しいと感じないセミナーで非常に良かった。

規格の意図と箇条間の関係性を

ISO 9001関連

アーカイブ

	上海 りる			アーカイブ オンライン	
参加対象者	●内部監査員 ●監査事務局				
コース概要	ISO 9001の要求事項を勘違いして無駄な仕組みを構築している組織があることと、セミナーなどで要求事項に関する質問がありますので、ISO 9001規格の意図を中心に事例を含めて解説します。				
プログラム	① 箇条4、5 ② 箇条6、7		③ 箇条8 ④ 箇条9、10		
予定講師	福丸 典芳		定員	100名	
日程	開催日		時間	申込締切日	
口任	2025年10月21日(火)	10:00 ~	16:00	2025年10月13日(月)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

VOICE 参加者の声

- ▶ ISO9001を始めたばかりで、内部監査員になっても用語の理解ができずに困っていました。質問形式で内容が書いてありとても分かりやすかったです。
- ▶箇条間の関係や違いが分かり易い説明でした。また、プロセス・変更管理・なぜなぜ分析も分かり易い説明でした。
- ▶規格の箇条ごとに、細かな解説があり分かりやすかったです。

参加対象者

コース概要

内部監査報告書の書き方と調べ方

ISO 9001関連

[ISO 9001]

●内部監査員 ●内部監査の主幹者/レビュアー ●内部監査員の教育に携わる方 「内部監査報告書をどう書けばよいのでしょうか」と、よく尋ねられます。質問は「書き方」なのですが、趣旨 は「何を書けばよいか」であり、本質的には「何を調べたらよいか」のようです。もっともよく見かけるのは「書 類の有無や記述の不備に関する言及にとどまっていて、システム的な内容にまで踏み込んでいない」という症 状です。つまり、これまで進めてきた内部監査の所見を、もう一歩踏み込んで調べるだけで、本質的な問題点 を見いだせる状況にまで迫っていることを意味します。この研修では、まず内部監査を活性化するための切り 口についてお話ししたうえで、事例に基づいて、どのような突破口があるか、どのような本質に迫ることがで きる可能性があるかを、皆さんとともに考えます。組織のすべての活動要素を取り上げるのがベストでしょうが、 限られた時間を有効に活用するために、比較的よく見かける症状を中心にご紹介します。

内部監査の活性化のポイント プログラム 講義2 報告の記述例を基に一歩踏み込む調べ方を

講義3 個別事項の監査での見方① 講義4 個別事項の監査での見方②

	考える			
予定講師	国府 保周		定員	100名
D 40	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年11月27日 (木)	10:00 ~	16:00	2025年11月19日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶内部監査への考え方や切り込み方を学び、内部監査の活性化に繋がる内容であったと感じました。▶事例が豊富で今後の活動に大変参考になりました。自社にどう適用していくか考えなければいけない内容もあるのでそのあたりもうまく取り入れられるようにし、継続 してテキスト活用させていただければと思います。
- ▶ルールブックからではなく、現状の把握から展開していく進め方については腑に落ちる所があり、大変有意義な時間でした。

M-5

「設計・開発」の捉え方と柔軟な運用

ISO 9001関連 アーカイブ

参加対象者	設計・開発部門担当者、生産技術部門担当者、製造部門担当者を主な対象者としますが、スタッフ部門の方も 歓迎します。					
コース概要	ISO 9000:2015 (JIS Q 9000:2015)「品質マネジメントシステムー基本及び用語」で、設計・開発の用語が変更されたことで、設計・開発の捉え方が柔軟になりました。その一方で、ISO 9001:2015 (JIS Q 9001:2015) で "適用除外"の概念がなくなったことで、これまで製品設計を行っていなかった組織に設計・開発を適用する場面で混乱が見られます。本講座では、規格が求める設計・開発の意図、難解な "レビュー"、"検証"、"妥当性確認"の意味、及び製品設計を行っていない組織での設計・開発の適用について、分かり易く解説を行います。					
プログラム	① 設計・開発に関連する規格の変化点 ⑤ 変更管理の重要性 ② 多様な業務に設計・開発は適用可能 ⑥ 品質(製品品質,業務品質)のほとんどは設計・開発で決まる! ④ 設計・開発の記録は煩雑か? ⑦ 良い設計とは? ⑧ 企業不祥事(データ改ざん)と設計・開発					
予定講師	越山卓	視聴時間	3時間			
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能			

VOICE 参加者の声

- ▶製造業に従事しているため設計・開発を狭く捉えていたが、飲食店や保育園といった役務提供にも適用できる旨を伺って目から鱗だった。
- ▶検証と妥当性確認の違いについて実例を交えた説明が大変わかりやすかった。UserNeedsからProductまでの関わりを描いた図や良い例と悪い例の対比によって、 理解を深められたと思う。

実務者向けQMS短編集(その1) -製造-

ISO 9001関連 アーカイブ

	1				
参加対象者	製造現場要員				
コース概要	製造現場要員を対象に、QMS運用の"肝"を1時間程度で解説します。				
プログラム	① 認識の重要性 (7.3項) ④ ヒューマンエラーへの対応 (8.5.1g)項) ② 組織の知識 (7.1.6項) ⑤ 顧客所有物の取り扱い (8.5.3項) ③ 作業手順書の作成 (8.3.4項の活用) ⑥ 不適合品の管理 (8.7項)				
予定講師	越山 卓	視聴時間	1 時間		
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能		

実務者向けQMS短編集(その2)ーサービスー

ISO 9001関連

	I					
参加対象者	サービス提供要員	サービス提供要員				
コース概要	サービス提供要員を対象に、QMS運用の"肝"を1時間程度で解説します。					
プログラム	① サービスに関する要求事項のレビュー(8.2.3項)④ 作業手順書の作成(8.3.4項の活用)② プロセスの妥当性確認(8.5.1項f))⑤ ヒューマンエラーへの対応(8.5.1g)項)③ 組織の知識(7.1.6項)⑥ 顧客所有物の取り扱い(8.5.3項)					
予定講師	越山 卓	視聴時間	1 時間			
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能			

ISO 14001 (EMS) 概要解説コース

アーカイブ

参加対象者	●ISO推進事務局になられた方 ●環境マネジメントシステムの基礎を学びたい方					
コース概要	環境マネジメントシステム(ISO14001	環境マネジメントシステム (ISO14001:2015) の概要について分かりやすくご説明します。				
プログラム	① マネジメントシステムとISO規格 ② ISO 14000ファミリーとISO 1400 ③ 環境の課題)1	④ 環境マネジメントの取組み ⑤ 主な規格要求事項			
予定講師	高橋 邦雄		定員	100名		
D49	開催日		時間	申込締切日		
日程	2025年5月21日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年5月13日 (火)		
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)		

VOICE 参加者の声

M-9	N	V		9
-----	---	---	--	---

環境法規制管理のポイント

	7 747			7-11-1
参加対象者	● 環境法規制管理を行っている方● 法的要求事項(順守義務)を学びたい方● 最近の環境法令改正を知りたい方			
コース概要	本セミナーは、環境マネジメントシステム (ISO 14001) の順守義務 (法的要求事項等) の管理を行っている、 これから行おうとしている方、基本的なことを知りたい方、最新の環境法令の改正動向等を知りたい方を対象 として、その管理・運用方法を分かりやすく解説します。			
プログラム	① ISO14001と環境法規制順守 ② 環境法規制の特定 ③ 環境法規制の最新版管理		④ 環境法規制の ⑤ 最新環境法令	***************************************
予定講師	高橋 邦雄		定員	100名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年9月11日 (木)	10:00 ~ 16:00		2025年9月3日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶環境法規制の特定、維持管理の方法について丁寧に解説されており、大変役に立ちました。また、直近の改訂内容、新法の紹介もあり、内容が充実していました。
- ▶EMSの環境法規制に関する活動にフォーカスした説明をきいたのは初めてで、大変参考になりました。当社の現状としては概ね間違っていないという安心感を得ら
- ▶法規制の管理や順守方法などについて資料もわかりやすくまとめてあり、ポイントなど含めて講義頂け、自社の取り組み方と照らし合わせながら聴講し、大変参考に なりました。



M-10 はじめてのISO 14001

ISO14001関連 アーカイブ

参加対象者	●初めてISOの担当になられた方 ●ISO14001の基本的な内容を知りたい方 ●新入社員の方		
コース概要	本セミナーは、ISO14001環境マネジメントシステムにはじめて触れる方の、 ① ISO14001って何?② 何故ISO14001が必要なのか?③ 環境マネジメントシステム (EMS) を構築するってどういうこと?④ ちょっと規格を読んだけど用語が分かり難くて頭が痛くなった…⑤ ISO14001を適用した身近な事例が知りたい!といった疑問・不満を解消するために、短時間でISO14001の概要を解説するものです。		
プログラム	① マネジメントシステムとISO規格 ④ 環境マネジメントの取組み ② ISO14000ファミリーとISO 14001 ⑤ 主な規格要求事項 ③ 環境の課題 ⑥ 認証機関と最近の認証動向		
予定講師	高橋 邦雄	視聴時間	1時間30分
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶既にISO14001を運用中ですが、初心に帰る意味で本講義を視聴しましたが、改めて再確認できた内容が多くあり、たいへん参考になりました。
- ▶はじめてのISO14001の名の通り、初めての人向けのわかりやすい内容であった。
- ▶ISO14001の基本的な内容を理解する機会になってよかったです。

自動車CSMS ISO/SAE 21434対応

参加対象者	●ISO/SAE 21434規格について知りたい方 ●これから CSMS導入を担当する方		
コース概要	UNECE (国連欧州経済委員会)では、サイバーセキュリティ規則 (UN-R155)が採択された。UN-R155では、CSMS (サイバーセキュリティマネジメントシステム)の導入が要求されている。ISO (国際標準化機構)とSAE (米国自動車技術者協会)で、CSMS構築のガイドライン規格である、ISO/SAE 21434:2021を作成し発行した。本コースでは、ISO/SAE 21434規格の解説及びその要求の中心であるTARA (脅威分析及びリスク評価)の手法の解説を行う。		
プログラム	①ISO/SAE 21434規格解説 ②TARAの手法解説 ③TARAの具体例解説		
予定講師	村上 治 視聴時間 5時間		
個人ワーク・ グループワーク	なし パソコンの 1台で複数名受講可能		1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶ 自動車CSMSと他規格との相違点などがよくわかりました。▶ 専門的な用語が多く、戸惑いましたが勉強になりました。規格解説について、詳細を一通り学べたので良かったです。▶ 各キーワードに対し、具体例を交えわかりやすく解説していただけた。改めてセミナーを受けて、知識不足なところが補えた。

ISO 22000・FSSC 22000 概要解説コース

	•			
参加対象者	●規格を基礎からもう一度学びたい方●これから学びたい方			
コース概要	本コースでは、ISO22000及びFSSCの規格の概要と解釈について解説いたします。 (注)「ISO 22000:2018」 及び 「FSSC 22000 Ver6.0」 上記規格をお手元に準備いただきご受講ください。			
プログラム	① ISO22000:2018規格の概要と解釈 ② FSSCの規格の概要と解釈			
予定講師	島袋 千恵子	定員		100名
n#	開催日	時間		申込締切日
日程	2025年8月26日 (火)	10:00 ~ 16:00		2025年8月18日 (月)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶セミナーの最初の段階で一から説明してくださったため、理解しやすくなったと思います。 FSSCの要求項目が想像以上に多く、この認証を取得することで製品の安 全性を確実に示すことができると実感しました。
- ▶説明が速く理解できない部分もありましたが大変勉強になりました。今後仕事をしていくなかで有効に活用したいと思います。

[▶] ISO14001 (EMS)が設立した経緯から基本的な内容、運用方法まで基礎基本を学べたセミナーだと思った。

[▶]内部監査人としての基本知識・心構えを学ぶことができるため、定期的な受講が良いと感じている。

食品安全マネジメントシステム 内部監査実践コース

受講証明書付 オンライン

参加対象者	●管理責任者 ●内部監査員 ●ISO 22000規格要求事項を理解している方 ●内部監査員候補者			る方 ●内部監査員候補者
コース概要	食品の安全安心を引き続き維持すること、システムの継続的改善を行うためには有効的な内部監査が求められます。 逐条的な内部監査ではなく、内部監査の目的を明確にすること、何を優先的に確認するのか、何に着目するのかなど具体的に説明します。 ※M-12 「ISO 22000・FSSC 22000概要解説コース」を先に受講されると理解が深まります。			
プログラム	① 食品安全マネジメントシステム内部監査の計画 ② 内部監査の実施 ③ 内部監査結果の評価		④ 内部監査結果の検証⑤ 質疑応答⑥ 理解度テスト	
予定講師	島袋・千恵子		定員	100名
日程	開催日		時間	申込締切日
口任	2025年7月8日 (火)	10:00 ~	16:00	2025年6月30日 (月)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1人1台 ※理解度テスト受験時は1人1台必須

VOICE 参加者の声

- ▶食品工場における、具体的な課題点やチェック箇所の事例を取り上げていて、参考になった。
- ▶今回の講義を受けて以前よりどのような視点で行うかがイメージでき自信もつきました。演習が途中であったことで具体的かつ主体的に考えることができたように思
- ・ います。
 ▶今まで形式的に実施していた内部監査が改善のために有効な内部監査に変えられると実感した。

● 受講証明書付オンラインとは

オンラインセミナー終了後→デリバルにログイン→理解度テスト実施→合格された方に、【受講証明書】を発行いただけます。

どうされていますか?食品の微生物検査

オンライン

~適切な検査計画のために~

アーカイブ

参加対象者	●食品の微生物検査担当者 ●品質管理	·品質保証担	当者など	
コース概要	2021年のHACCP制度化を契機として、食品の品質管理手法は、従来の最終製品検査から工程モニタリングへのシフトが加速し、より科学的な根拠を求められるようになっています。 本コースでは、食品の微生物検査を行う上で、目的にあった自主検査方法を計画できるよう、計画時の考慮点や微生物検査の基礎についてお伝えします。			
プログラム	① 改正食品衛生法の変化点と背景 ② 微生物検査の特徴と考え方		③ 検査目的と計画	
予定講師	鈴木 九美		定員	100名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年8月27日 (水) 13:00~		16:00	2025年8月19日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶微生物それぞれの特性や、検査結果に対する信頼性などの話はとても分かりやすく、自社活動の中で参考になりました。
- ▶改正食品衛生法の変化点と背景について改めて整理できてよかったです。
- ▶検査室を想定したバイオセーフティー対策例(特に注意するポイント)などは検査のプロの視点でご説明いただけたので、気づかなかったポイントを知ることができ、 今後の現場改善に役立てていきたいと思います。

振り返ってみましょう!食品の微生物検査

アーカイブ

検査結果の正しい理解のために~

参加対象者	●食品の微生物検査担当者 ●品質管理・品質保証担当者など			
コース概要	マネジメントシステムにおいて、継続的な監視および改善をより有効的に進めていく上で、得られるデータの 信頼性および妥当性を評価できることが非常に重要です。 本コースでは、食品の微生物検査結果を正しく理解し、検証および改善等のアクションに繋げられるよう、評 価時の考慮点についてお伝えします。			
プログラム	① 検査結果の読み取り方 ③ 材 ② 検査結果の信頼性 3		③ 検査結果を改	善力に活かす
予定講師	鈴木 九美		定員	100名
D40	開催日		時間	申込締切日
日程	2026年2月12日 (木)	13:00 ~ 16:00		2026年2月4日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

M-16 食品工場の新人教育

	I		
参加対象者	食品工場で働く方		
コース概要	食品工場で働き始める方に向けて、一般衛生(手洗い、入室手順など)、食中毒菌やアレルギーなど食品の基礎 知識についてお話します。新入社員、継続的な従業員教育にご活用ください。		
プログラム	① 一般衛生について ③ 食品アレルギーについて ② 食中毒菌について 3		ーについて
予定講師	谷口 あゆみ	視聴時間	3時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶新入社員への教育にとても良い内容だと思いました。工場にとって基礎でありとても重要な一般衛生について学ぶことができ、今後も教育に活用していきたいと思い
- ▶食中毒菌の種類を覚えたり、食品メーカーに従事し始めたばかりの方には良いセミナーと感じた。

初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方

アーカイブ

参加対象者	初めて表示に携わる方々向け		
コース概要	表示を初めて見る、表示チェック・作成を初めて携わる方への表示の見方、チェック、作成方法の基本をお話 します。		
プログラム	①表示に関する一般的な法律 ③ 一般的な食品の表示方法 ②添加物、アレルギー表示の基礎 ④表示作成		
予定講師	見富信祐	視聴時間	3時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶表示チェック業務を始めたばかりだったため、法規制の概要から説明いただけてとても分かりやすかったです。各項目の注意点だけでなく、講師の先生の具体的な経 験談が豊富でとても参考になりました。

 ▶食品業界に入って間もないのですが、表示作成時に必ず注意しなければいけないポイントが分かり大変勉強になりました。

 ▶事例を加えながらご説明いただけたので、イメージがわき大変勉強になりました。

M-18 食品安全規格等の基礎知識: 60分シリーズ キホンの「キ」



参加対象者	食品業界の方全般		
コース概要	「HACCP」「ISO22000」「FSSC22000」、食品関連企業では必ずと言っていいほど耳にするこの言葉。近年、食品安全への関心がより一層高まっているなか、本コースではその成り立ちや必要性・目的などを基礎から解説します。		
プログラム	キホンの「キ」! (4回シリーズ) 3 FSSC22000の「キ」! 4 HACCPの「キ」! 4 HACCP⇒ISO22000⇒FSSC22000 ステップアップの「キ」! ステップアップの「キ」!		
予定講師	谷口 あゆみ 玉置 知也	視聴時間	各1時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶規格の概要が簡潔に説明されて非常にわかりやすかった。
- ▶講師の説明が細かな部分までされていたので詳細を理解しながら視聴できた。

M	1_1	9
IV		

実務に取り込むISO 22000: 2018

食品安全関連

アーカイブ

参加対象者	食品安全チームリーダーを含め、主に現場での運用に携わっている方、その他FSMSへの理解を深めたい方			
コース概要	本コースでは、改めて規格改定の要点を振り返り、実際の審査から見える留意点なども具体的な事例を踏まえお 伝えします。			
プログラム	① オリエンテーション ② 第一章 ISO 22000規格要求事項の振り返り 〜規格改正の背景と概要〜	③ 第二章 ISO 22000規格要求事項を俯瞰する 〜規格の要点と現場での運用〜 ④ コースのまとめ、質疑応答		
予定講師	渡辺 昭嘉	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶短い時間にエッセンスがまとめられていました。
- ▶ISO活動推進の上で実際に発生しがちな問題点や対策などかなり具体的に分かり易く解説して頂けたのが良かったです。特に活動が低調化する要因など生々しくて身につまされるものがありました。
- ▶知識が増え、業務でも活かしていきたい内容だった。

M-20

HACCPの基礎知識

食品安全関連

アーカイブ

参加対象者	食品製造現場で働く方、その他食品関連のお仕事をしている方、HACCPについてより学びたい方			
コース概要	本コースでは、HACCPの概要説明、HACCPの考え方の解説や実例を紹介します。			
プログラム	① HACCP ってなーに? ② HACCPを使ってみようー!	③ コースのまとめ、質疑応答		
予定講師	玉置 知也	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶ HACCPプランを構築するうえでのぼんやりとした理解が鮮明になった。
- ▶食品工場ではないが製造工程図や危害要因分析表は容器製造においても重要であると再認識できた。

M-21

コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など)



参加対象者	食品製造現場で働く方、コンプライアンス関係のお仕事をされている方			
コース概要	本コースでは、食品表示法や景品表示法など食品衛生以外の食品に関わる法律を実例を交えて簡単にお伝えします。			
プログラム	① 食品に関わる法律について ② 食品表示法、景品表示法の概要	③ 質疑応答	質疑応答	
予定講師	谷口 あゆみ	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶食品の表示についてどんなことに気をつけなければならないか、対応する法律や実例を交えて分かりやすく学ぶことができた。
- ▶QA形式もあり、集中して受講できました。実務として携わっている方からの説明でとても分かりやすかったです。

M-22

必修!基礎から学ぶ食品衛生① 食品衛生責任者を超える力量が得られます!

食品安全関連 アーカイブ

- 公衆衛生から関連法規の理解まで~

参加対象者	●食品安全を基礎から学びたい方 ●食品衛生責任者		
コース概要	食品安全の基礎となる公衆衛生、食品衛生及び食品安全に関係する法令などを具体的な事例をとおして解りやすく お伝えします。(連続講座その1)		
プログラム	① 公衆衛生学・公衆衛生とは・環境衛生、労働衛生	② 食品衛生学(その1) ・主な食中毒と健康被害 ▶食中毒の分類 ▶食中毒の発生状況 ▶主な食中毒の事例とその原因	
予定講師	渡辺 昭嘉	視聴時間	3時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶代表的な食中毒菌の種類や感染原因、予防法などをわかりやすくまとめていただけたので、理解が進んだ。
- ▶幅広い内容をすっきりとわかりやすくまとめられていて理解しやすかった。講師の実務経験に基づく食中毒事例の話は特におもしろく、また興味深かった。

M-23

必修!基礎から学ぶ食品衛生② 品衛生責任者を超える力量が得られます!

及吅女王闵廷

~公衆衛生から関連法規の理解まで~

|--|

参加対象者	●食品安全を基礎から学びたい方 ●食品衛生責任者			
コース概要	食品安全の基礎となる公衆衛生、食品衛生及び食品安全に関係する法令などを具体的な事例をとおして解りやすくお伝えします。(連続講座その2)			
プログラム	③ 食品衛生学(その2)・施設設備の衛生管理・食品の衛生的な取扱い・食品取扱者の衛生管理	施設設備の衛生管理 ・食品安全基本法 食品の衛生的な取扱い ・食品衛生法		
予定講師	渡辺 昭嘉	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶ 8種法律の具体的な内容の復習となった。弊社で取り入れている衛生管理手順の内容にどこがどう当てはまるのか考えながら受講することで、今後の管理体制の見直しに役立てることができると考える。
 - ▶解りやすい説明でした。法的な関係の講義があり参考になった。

32

M-24

参加対象者

コース概要

ISO/IEC27001 (ISMS) 概要解説コース

情報セキュリティ関連 オンライン

アーカイブ

●ISO推進事務局の方 ●情報セキュリティマネジメントシステムの基礎から学びたい方
情報セキュリティマネジメントシステム (ISO/IEC27001:2022) の規格要求事項と主な情報セキュリティ管理策の概要についてわかりやすくご説明します。また、最近の情報セキュリティインシデントの傾向から、今後強化すべき技術的セキュリティ対策のポイントについても解説します。
① ISMS適合性評価制度 (4) 情報セキュリティインシデントの傾向と対策

プログラム	① ISMS適合性評価制度 ② ISMSファミリー規格の最新動向 ③ JIS Q 27001:2023規格要求事項の	最新動向		④ 情報セキュリティインシデントの傾向と対策 ⑤ 附属書A「管理目的及び管理策」の解説	
予定講師	木村 歳修	定員		100名	
日程	開催日	時間		申込締切日	
	2025年5月15日 (木)	10:00 ~ 16:00		2025年5月7日 (水)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

VOICE 参加者の声

- ▶先にアーカイブ版で見ていた内容と同じでしたが、改めて受講することでより理解が深まり自社の運用に取り入れるポイントが見つかりました。
- ▶ 規格要求事項、附属書Aのポイントについて分かりやすく解説頂き、社内で展開すべき対応依頼、内容について整理できました。

M-25

ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 概要解説コース

情報でキュリティ関連

アーカイブ

参加対象者	●ISMSを推進している方 ●クラウドサービスに従事する方 ●ISMSクラウドセキュリティ認証に興味がある方				
コース概要	ISO/IEC 27017に基づくISMSクラウドセキュリティ認証の概要について分かりやすくご説明します。				
プログラム	① クラウドサービスの現状と課題② ISMS クラウドセキュリティ認証の概要とその要求事項		③ ISO/IEC 27017におけるクラウドサービスのための実施の手引及び追加の管理策		
予定講師	吉田 哲也		定員	100名	
D#	開催日	時間		申込締切日	
日程	2026年2月3日 (火)	13:00 ~ 16:00		2026年1月26日 (月)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

VOICE 参加者の声

- ▶ISMS クラウドセキュリティ(ISMS-CS)概要解説としては十分な内容で概要については理解ができた。 ▶分かりやすい説明で、授業のスピードも丁度良かった。 クラウドサービスの現状について、知っているようで知らないことが結構あったので、とても勉強になった。
- ▶ 予ガかりやすい説明で、技業の人と一下も」及及がうだ。 グラットリーと人の現状について、知っているようで知らないことが結構のうだので、とても勉強になった ▶ 今後クラウドサービスがますます重要になることがわかりました。

M-26

JIS Q 27001:2023に基づく ISMS内部監査員研修

アーカイブ情報セキュリティ関連受講証明書付受講証明書付オンラインアーカイブ

参加対象者	●これまでMS内部監査を担当している方 ●ISMSを理解したい方				
コース概要	改正規格に基づきISMSの規格解説と内部監査の解説を行う。MS内部監査経験者を対象とした、レベルアップコース。(他MSも可) 理解度テストを実施し、合格者には受講証明書を発行。				
プログラム	① 規格の概要 ⑤ 監査の進め方 ② 規格の解説 ⑥ 質疑応答 ③ リスクアセスメント ① 理解度テスト ④ 適用宣言書 ① 理解度テスト				
予定講師	村上 治 定員			100名	
	開催日開催形式			申込締切日	
日程	2025年 9 月12日(金) 10:00~16:00	 受講証明書付オンライン 		2025年9月4日 (木)	
	2025年11月19日(水) 9:00 ~11月21日(金)19:00(3日間)	受講証明書付アーカイブ 【視聴時間:約4時間】		2025年11月11日(火)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1人1台 ※理解度テスト受験時は 1人1台必須	

VOICE 参加者の声

- ▶非常に分かりやすい説明で、普段は自社の管理策や個別ルールのことばかり考えるのですが、体系的な理解が促進されました。
- ▶以前の受講から村上先生の講義は分かりやすいと思っており、今回も期待どおり分かりやすく、大変勉強になりました。変更になった箇所を重点的に解説していただき、 原文をもとに解説していただけたので理解できるようになりました。
- 原文をもとに解説していただけたので理解できるようになりました。 >要点を絞って、かつ変更点などは実質上どうなのかなどのコメントも添えての説明で非常に効率的に理解が進んだ。
- ※受講時間帯は自組織の規定に従って行ってください。

● 受講証明書付アーカイブセミナーとは

限定された日時でご視聴いただくセミナーとなっております。終了後に理解度テストを実施し、合格された方に、受講証明書を発行い ただけます。

● 受講証明書付アーカイブセミナー視聴までの流れ

【お申込み】→ 1 週間程前に視聴 ID / PW を送信します。→当日、デリバルにログイン後、期間内で全ての動画を視聴いただき→終了後、理解度テストを実施→合格された方に、【受講証明書】を発行いただけます。

【注意事項】

- ※複数名でのご視聴不可
- ※通常のアーカイブセミナーでは、受講証明書は発行されません。

● 受講証明書付オンラインとは

オンラインセミナー終了後→デリバルにログイン→理解度テスト実施→合格された方に、【受講証明書】を発行いただけます。

QMS/EMS認証組織のための 情報セキュリティ入門



	•			
参加対象者	●情報セキュリティ初心者 ●ISMS導入を検討している方			
コース概要	情報セキュリティについて、日本は海外に比べ遅れていると言われています。また日本国内でも、情報セキュリティのレベルに、産業間で大きな差があるようです。本講座では、情報セキュリティの必要性、考え方、手法、マネジメントシステムについてわかりやすく解説します。			
プログラム	① 情報セキュリティの必要性 ② 日本企業の情報管理の盲点	③ 情報の保護 何をすべきか ④ 情報セキュリティマネジメントシステム		
予定講師	村上 治	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶数日に分けて視聴出来たので再確認や業務の都合に合わせて受講できて良かった。▶情報セキュリティといった時に、情報漏洩防止の事ばかりに注意が向いていました。その認識を改められただけでも今回のセミナーを受講した意義がありました。

ISO/IEC27001:2022規格改正移行説明会

参加対象者	●ISMS登録組織 ●ISMS事務局の方			
コース概要	2022年2月15日にISO/IEC 27002:2022が発行され、これに伴い2022年10月25日にISO/IEC 27001:2022が発行されました。この規格の発行に伴い、本規格の移行審査における要求事項(MD26)も発行されました。 本コースでは、ISO/IEC 27001:2022の変更点を中心にISO/IEC 27002:2022の変更概要及び当センターの移行審査についてご説明します。			
プログラム	- ISO/IEC27001:2022及びISO/ IEC27002:2022の変更概要及びJIS化の動き について - ISO/IEC27001:2022 規格要求事項の変更点に ついて	·ISO/IEC27001:2022 管理策の変更点について ·日科技連 ISO審査登録センター ISO/IEC27001:2022の移行対応について		
予定講師	吉岡 努	視聴時間	3時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	



参加対象者	●ISMS担当者 ●ISO/IEC 27001 附属書Aをより深く理解したい方		
コース概要	ISMSの要求事項規格であるISO/IEC 27001の附属書Aの管理策は、ISMSのガイドライン規格であるISO/IEC 27002でより詳細な記述があります。ISMSを導入している組織の担当者は、ISO/IEC 27002についても理解しておく必要があります。本講座では、ISO/IEC 27002規格に沿ってわかりやすく解説していきます。		
プログラム	① 情報セキュリティ管理策の構成 ② 組織的管理策 ③ 人的管理策	④ 物理的管理策 ⑤ 技術的管理策	
予定講師	村上 治	視聴時間	5時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶復習のため履修し、再確認できて良かった。審査員視点でのコメントもあり、有意義であった。
- ▶新規の管理策以外についてもポイントを解説していただき、疑問点も質疑で解消させていただけたので良かったです。

プライバシー情報マネジメントシステム (ISMS-PIMS)について



参加対象者	●個人情報管理に従事する方 ●新たな個人情報管理に関する規格に興味がある方		
コース概要	プライバシー情報の管理における世界的な流れを受けてISO/IEC 27701が発行されました。 ISO/IEC 27701の内容説明とともに、国内規格であるPマークとの違いについて解説いたします。		
プログラム	① プライバシー情報保護規制の推移 ② ISMS-PIMS認証について	③ Pマークとの違いについて ④ ISO/IEC 27701 の内容	
予定講師	吉岡 努	視聴時間	3時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶プライバシー情報に関する国際規格の仕組みから、PII管理者、およびPII処理者の関係・役割が非常に分かりやすく理解することが出来ました。
- ▶ISMS認証に加え、追加認証を取得を検討するかの材料となった。

M-31 ISO45001 (OHSMS) 概要解説コース

			アーカイン
参加対象者	●ISO45001の基本的内容を知りたい方 ●労働安全衛生マネジメントシステムの導入を考えている方 ●労働安全衛生を担当されている方		
コース概要	本セミナーは、労働安全衛生マネジメントシステム (ISO 45001) を知りたい方、利用したい方、参考にしたい方を対象として、その概要を分かりやすく解説します。		
プログラム	① 労働安全衛生の現状 ④ 事故を防ぐマネジメント ② ISO45001規格とは、その特徴は ⑤ 審査の視点から見たOHSMS		
予定講師	高橋 邦雄	視聴時間	5時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶丁寧に解説頂き、取組み経験の少ない者には、理解しやすいものであった。
- ▶ポイントを絞って具体的に丁寧に説明していただいたので、とても分かりやすかったです。 ISO45001に関する知識がなかったので、認証状況や規格の解説、認証審査のポイントなども教えていただき勉強になりました。
- ▶ゆっくり丁寧に説明頂き、よく聞き取ることが出来ました。

36

わかりやすいプロセスアプローチ 基礎解説コース

アーカイブ

	I e e e e e e e e e e e e e e e e e e e			
参加対象者	●マネジメントシステムの運用に携わる方 ●内部監査員候補者			
コース概要	「プロセス」と「プロセスアプローチ」は、効果的なマネジメントシステムを構築・運用するためのもっとも重要な概念です。マネジメントシステム規格を経営ツールとして使いこなすための"基礎の基礎"について、欧米との文化的背景の違いを含めて解説します。 ※本コースは M-32、M-33、M-34の順で受講いただく事により、更に理解が深まります。			
プログラム	9		④ プロセスアプ ⑤ プロセスの構	ローチとは 成要素(側面)とリスク・機会
予定講師	横沢 俊一		定員	100名
n#	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年5月23日(金)	10:00 ~	16:00	2025年5月15日 (木)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶規格や認証についてこれまで何となくわかったつもりでいたことが、整理され、自分の中で体系的に理解できた。▶形骸化しているMSに関し再設計の必要を感じているため、プロセスアプローチの基礎を学ぶことでヒントを得られました。
- ▶プロセスアプローチの概念をわかりやすく学べた。

プロセス・マップの作成基礎コース

MS共通

オンライン

アーカイブ

参加対象者	●マネジメントシステムの運用に携わる方 ●内部監査員候補者			
コース概要	マネジメントシステム規格の中核的概念である「プロセスアプローチ」を具体化するためのツールの一つが「プロセス・マップ」です。特に、このコースではインフラストラクチャー、人的資源などの支援システムの「プロセス・マップ」の考え方も解説します。基礎編である「M-32_わかりやすいプロセスアプローチ基礎解説コース」と併せて受講いただくとさらに理解が深まります。 ※本コースは M-32、M-33、M-34の順で受講いただく事により、更に理解が深まります。			
プログラム			④ 支援システムのマッピング ⑤ 事業プロセスとMS規格要求事項との統合・融合	
予定講師	横沢 俊一		定員	100名
Π#	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年6月12日 (木)	10:00 ~	16:00	2025年6月4日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶規格要求に対する考え方やプロセスマップを作成することによって問題点を整理する手法は参考になった。
- ▶ 具体的にプロセスマップの説明をいただきありがとうございます。業務プローやコミュニケーション一覧など実際に運用していたものがありましたので良かったです。

内部監査員養成コース(MS共通)

アーカイブ

MS共通

受講証明書付 アーカイブ

参加対象者	●管理責任者 ●内部監査員 ●内部監査員候補者				
コース概要	内部監査を通じて業務のレベルアップを図ることが重要です。内部監査員として、何に着目し、どのように展開すると効果的な内部監査となるのか。その枠組みと基本的な内部監査のポイントを解説します。 ※本コースは M-32、M-33、M-34の順で受講いただく事により、更に理解が深まります。				
プログラム	① 内部監査の目的と課題 ③ 内部監査の計画 ② 内部監査システムの構築 ④ 内部監査の実施と評価				
予定講師	横沢俊一		定員	150名	
	開催日	開	申込締切日		
	2025年 4 月21日 (月) 9:00 ~ 23日 (水) 19:00 (3日間)	受講証明書付アーカイブ 【視聴時間:約4時間※個人ワーク含む】		2025年4月13日(日)	
	2025年 7 月24日 (木) 10:00 ~ 16:00	受講証明書付オンライン		2025年7月16日(水)	
日程	2025年10月22日(水) 9:00 ~ 24日(金) 19:00 (3日間)	> \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	情付アーカイブ 間※個人ワーク含む】	2025年10月14日(火)	
	2025年12月17日(水) 9:00 ~ 19日(金) 19:00 (3日間)	受講証明書付アーカイブ 【視聴時間:約4時間※個人ワーク含む】		2025年12月9日(火)	
	2026年 2 月26日 (木) 10:00 ~ 16:00	受講証明書付オンライン		2026年2月18日(水)	
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり	パソコンの 準備		スト受験時は1人1台必須	

VOICE 参加者の声

- ▶内部監査に関して被監査部署の補助要員としての経験はあったが、監査側の視点に関しては初めてでした。また是正処置等を作成する側としても考え方や作成時の参
- 考となるものでした。 ▶資料も話し方もとても分かりやすかった。内部監査は苦手意識があったが身近なものに思えた。適度に休憩もあったので集中できた。来月実施する内部監査のヒント になる内容がたくさん聞けて良かった。
- ▶ ISOに関して前提の知識がある程度必要であったため、規格の内容等でついていけないところがあった。 以前被監査部門として内部監査を受けた経験があったため 理解の助けとなった。

● 受講証明書付アーカイブセミナーとは

限定された日時でご視聴いただくセミナーとなっております。終了後に理解度テストを実施し、合格された方に、受講証明書を発行い ただけます。

● 受講証明書付アーカイブセミナー視聴までの流れ

【お申込み】→ 1 週間程前に視聴 ID / PW を送信します。→当日、デリバルにログイン後、期間内で全ての動画を視聴いただき→終了後、 理解度テストを実施→合格された方に、【受講証明書】を発行いただけます。

【注意事項】

※ 1 端末につき、1 名様のご受講 ※複数名でのご視聴不可 ※通常のアーカイブセミナーでは、受講証明書は発行されません。 ※視聴時間帯は自社の規定(就業時間など)に従いご受講ください。

● 受講証明書付オンラインとは

オンラインセミナー終了後→デリバルにログイン→理解度テスト実施→合格された方に、【受講証明書】を発行いただけます。

アーカイブ

実のあるマネジメントシステム活動と するために

参加対象者	●マネジメントシステム運用責任者の方 ●マネジメントシステムの改善に興味を		事務局の方	
コース概要	「マネジメントシステムの活動の一部が形骸化」という状況に、よく遭遇します。「審査を受けるための記録」「記録に残すことだけが目的の活動」「型にはめるタイプの書式」などが、形骸化/形式的の代表です。文書・記録系のものが多く、「ISO導入後に急遽設定したA4_1枚の用紙を疑え」という話題がよく出ます。形骸化/形式的と記しましたが、「実情/実態は、規程書に載っている実施事項や記録とは別にある」が「当事者は意識しておらず、周囲の人も気づいていない」というケースも多いようです。ならば、その実態を表に出し、理論武装し、規格要求事項との整合性を示せば、たいてい実効性が高くなります。担当講師は、現役の審査員です。この研修を通じて、審査での気付きを皆さまにフィードバックいたします。			
プログラム	第1章 マネジメントシステムが形骸化する! 第2章 要員育成と力量評価…形骸化しない育成計 画・実施形態・記録 第3章 購買と外部委託の管理…現実的な能力評価・ 対処方法と管理 第4章 顧客満足…ビジネスに即した捉え方と情報 活用		第5章 著しい環境側面…ビジネスと顧客を通じた環境貢献へ 第6章 マネジメントレビュー…経営者目線の場面・ 形態・内容の設定 第7章 各種記録…記録の内容・形態・媒体の指定 第8章 形骸化した運用の見抜き方と脱出への道	
予定講師	国府 保周		定員	100名
口把	開催日		時間	申込締切日
口任	2025年8月21日 (木) 10:00~		16:00	2025年8月13日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶ ISOを取得してから長く継続していこうとすると、「やれていることを継続する」ことが多くなり変化が無くなるので、今回のセミナーで新規への挑戦に対する行動のヒ ントになった。
- ▶マネジメントシステムの運用が形骸化しないための事例やヒントが多々あり、とても参考になりました。担当しているマネジメントシステム事務局を運営する際、意味な く業務負荷が大きくなるだけの対応とならないように、定期的に確認、見直しするようにして、活動できるように実践したいと思います。

MS共通 オンライン

アーカイブ

参加対象者	●マネジメントシステムの運用に携わる方 ● ISO 推進事務局の方 ●現場の管理、監督者の方				
コース概要	あらゆるISOマネジメントシステム規格が「リスク及び機会への取組み」を要求事項としています。ISO 9001も14001も、2015年版で正式に要求事項として扱っています。従来から「リスク」を想定して業務を行ってきましたが、ISOのマネジメントシステムと融合させて管理するには、どうすればよいか、どのように考えたらよいか。「機会」をどう活かせばよいか。このコースでは、規格制定の意図や捉え方を解説いたします。一方、「組織の知識」はISO 9001:2015に特有の要求事項ですが、他のマネジメントシステムにも有効な内容です。固有技術・ノウハウを確立した人々の退職や人材不足によって、事業活動の継続に不安が広がる中、「技術の伝承」はどのようにするとよいか、「組織の知識」としてどのように管理すると組織にメリットが生じるかを学んでいただきます。				
プログラム	① 各マネジメントシステムの類似性と相違性② リスクと機会への取組み(1)③ リスクと機会への取組み(2)		④ 組織の知識(1)⑤ 組織の知識(2)⑥ マネジメントシステムの積極活用		
予定講師	国府 保周		定員	100名	
D#	開催日		時間	申込締切日	
日程	2025年10月2日 (木)	10:00 ~	16:00	2025年9月24日 (水)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

VOICE 参加者の声

- ▶具体的な事例を盛り込んでお話ししていただけたので、イメージがとてもしやすく分かりやすかったです。
- ▶リスクと機会についての解釈について、感覚的にどういうのものか理解しやすく、考え方についてもどのようにとらえていけばよいかわかりやすかった点がとても良かっ
- ▶ 「技術の伝承」が、技術部門の話になるかと思ったが、他の部門にも共通するような内容だったので、参考になった。

参加対象者

形式的になりがちなマネジメントシステムの "3つのくせ者"

MS共通

アーカイブ

実効性からの再考~力量、文書化、目標~

●部門の管理者 ●内部監査員 ●IS○推進事務局 ●管理責任者

多加利 第百	●时 100 日廷日 ● 100 日廷亨切内 ● 日廷貝 L'日			
コース概要	「力量」「文書化」「目標」は、マネジメントシステムの形式的な運用のトップスリー。この研修では、現役審査員が組織の運用状況を審査で拝見した際の気付きを取り上げます。力量は「仕事を任せられるようにする」が目的なのに、書式や記録にこだわる。文書化は、活用・実用性が目的なのに、形作りにこだわる。目標は、組織戦略の実現に向けたチャレンジが目的なのに、運用レベルの数字の達成・未達にこだわる。これらはいずれも、形式的な運用になりがちで、組織にとっての弊害となりかねません。この研修での学びを通じて、「3つのくせ者」以外を含めて、形式的運用からの脱却の道を探りましょう。			
プログラム	 マネジメントシステムが形骸化する (本来の狙い、現状、規格要求事項) くせ者No.1《力量》 くせ者No.2《文書化》 くせ者No.3《目標》 	現状、規格要求事項) 《力量》 《文書化》		者たち[その1] 者たち[その2] 者たち[その3] ュアーと内部監査員への期待
予定講師	国府 保周			100名
	開催日		時間	申込締切日

VOICE 参加者の声

日程

個人ワーク・

グループワーク

2025年12月2日(火)

なし

- ▶力量や内部監査の指摘のとらえ方が今まで思っていたところではない部分の切り口を説明していただいて、新鮮でした。▶「形式的になりがち」な箇所と、理由について、細かく分割され、かみ砕かれてご説明いただけたことで、自社の状況にも当てはめて考えてみることができ、理 解が進みました。
- ▶国府様のご講義とても分かりやすかったです。ISOについての理解が深まると共に、誤解していた部分が多いことに気が付きました。今後はこのシステムを有効 に利用して行きたいと思います。

NEW 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 購買・外注部門の主な機能とISO要求事項

10:00 ~ 16:00

パソコンの

準備

アーカイブ

2025年11月24日(月)

※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

1台で複数名受講可能

※1端末:個人受講

コース概要	購買・外注部門における主要活動のエッセンスを扱う1時間のセミナー。原材料・部品の購買や製造・施工・サース概要 ス提供の外部委託のほか、設備や業務用ソフトウエアの導入など、購買・外注の扱う範囲は広い。意図する6			
7/1/2	の実現や、環境活動への参画など、広義の資源に相当する、組織にとって心強い外部パートナーである。運用の基本線と、内部監査での調査のポイントを紹介する。			
プログラム	① 購買・外注に関連するISO 9001 要求事項 ② 購買・外注・・・規格が扱う範囲 ③ 購買・外注部門の機能と特色 ④ 能力に基づく購買・外注先の評価 ③ 能力評価の記録の用途は ⑥ 購買・外注における環境の取組み ⑦ 当該部門に対する内部監査の調査			
予定講師	国府 保周	視聴時間	1時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能	

個人ワーク・

グループワーク

なし

NEW 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 設計・開発部門の主な機能とISO要求事項

アーカイブ

431-416-44	▲-	L - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	0110 5110 075%) #4#
参加対象者	●設計・開発部門の所属員 ●設計・開発部門を監査。	する内部監査員 ●	QMS・EMSの連宮王幹者
コース概要	設計・開発部門における主要活動のエッセンスを扱う1時間のセミナー。設計・開発は、新たな製品・サービスを生み出す機能であり、品質・環境の両面での先導役に当たる。設計・開発段階で実施する内容や進め方、それを確認する方法は、製造業、建設業、サービス業で大きく異なることから、事例を基に観点や管理を整理した。運用の基本線と、内部監査での調査のポイントを紹介する。		
プログラム	① 設計・開発に関連するISO 9001要求事項 ⑤ 設計・開発の例②…建設業(ゼネコン型) ② 設計・開発の規格が意図する対象は何か? ⑥ 設計・開発の例③…フィットネスクラブ ③ 設計・開発のレビュー、検証、妥当性確認 ⑦ 設計・開発における環境の取組み ④ 設計・開発の例①…プリンタ製品 ⑧ 当該部門に対する内部監査の調査		
予定講師	国府 保周	視聴時間	1 時間

パソコンの

準備

1台で複数名受講可能

M-40

NEW 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 学業・企画部門の主な機能とISO要求事項

MS 共通 アーカイブ

参加対象者	●営業部門・企画部門の所属員 ●営業部門・企画部門を監査する内部監査員 ●QMS・EMSの運営主幹者			
コース概要	営業・企画部門における主要活動のエッセンスを扱う1時間のセミナー。顧客と間近に接し、製品・サービスの魅力を顧客に訴求し、顧客を通じた環境改善の実現に貢献する。品質管理の基本であるマーケットインの最前線であり、顧客の信頼を勝ち取ることが、ビジネスの成長を促すなど、組織のけん引役としての機能をもつ。運用の基本線と、内部監査での調査のポイントを紹介する。			
プログラム	① 営業・企画に関連するISO 9001要求事項 ② 営業・企画部門の機能と特色 ③ 製品・サービスの顧客への訴求 ④ 製品・サービス要求事項のレビューと変更	⑤ 顧客満足の情報入手と活用 ⑥ 営業・企画における環境の取組み ⑦ 当該部門に対する内部監査の調査		
予定講師	国府 保周	視聴時間	1 時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

M-41

マネジメントシステムのスリム化セミナー

MS共通

アーカイブ

参加対象者	●マネジメントシステム運用責任者の方 ●ISO推進事務局の方 ●部門の管理者の方			
コース概要	マネジメントシステムを長く続けると歪みが蓄積します。「形式的になっている規定内容、記録を解消したい」、「日常的な実施事項や記録をシステムに取り入れたい」「使い勝手の悪い文書や記録を実務に即した形としたい」本コースでは、組織経営と結び付けたスリムなマネジメントシステムを実現するためのポイント・コツを、実践的な具体例を中心に解説いたします。			
プログラム	① ISO 9001 とISO 14001 の類似性と相違性 ② マネジメントシステム…複数要素の一体運営の道 ③ 品質活動と環境活動…活動内容の融和 ④ 身近なところから環境活動を考える ⑤ 個別の実施事項の大掃除…システムスリム化の前提	⑥ 現状を活かす…柔らか頭のマネジメントシステム⑦ 文書化と記録に、もう悩まされない⑧ 品質・環境目標への取組みを再考する⑨ 機会及びリスクへの取組み⑩ さらに充実したマネジメントシステムへ		
予定講師	国府 保周	視聴時間	5時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶本来目的を明確にし、システムに落とし込む合理性について理解が進みました。実践いたします。
- ▶ ISO9001の品質マニュアルを組織の実情にあわせ、分かりやすい内容に改定したいと考えており、参考となった。
- ▶マニュアルのスリム化を進めている中で検討しているところであり、参考になりました。

M-42

経営管理とMS規格 (箇条4:組織の状況)の本質

MS共通

アーカイブ

参加対象者	全MSの運営管理の責任者、各部門の責任者		
コース概要	MS規格の"箇条4:組織の状況"を組織の×××MSに適用するためには、経営管理と一体となった活動を行うことが基本です。このためには、外部・内部の課題から戦略を策定し、×××MSを構築し、運営管理し、継続的改善を行うことが組織のパフォーマンス向上につながります。本セミナーでは、MS規格の"箇条4:組織の状況"を適用するための方法について解説します。		
プログラム	①経営システムモデル 経営システムと×××MSとの関係及び方針管理 とMS規格の関係を理解する。 ②戦略プロセスと策定ツール 中長期経営計画の策定及び戦略策定ツールを理 解する。	③ MS規格の箇条4の意図 顧客価値と組織能力(コアコンピタンスの導き方) 及び×××MSの設計思想を理解する。	
予定講師	福丸 典芳	視聴時間	3時間
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能

VOICE 参加者の声

- ▶組織のマネジメントシステムの重要性が理解出来た。
- ▶ MS規格よりの講義と認識していましたが、経営学、ビジネス理論をわかりやすくご説明頂けたのは、とても良かったです。顧客のニーズから始まるという原点のお話はビジネスの軸として再認識することができました。

M-43

TQM視点でマネジメントシステム強化と 内部監査コース

品質管理 オンライン

参加	加対象者	●ISO推進責任者及び担当者 ●内部監査員 ●TQM推進者 ●部門、部署の管理者			
٦-	一ス概要	長年日科技連が提唱し実績のあるTQM、その中で柱となる「方針管理」「日常管理」の考え方や手法を、ISO9001やその他のマネジメントシステムに息を吹き込んで、経営に貢献するものに強化する方法を解説します。さらに、これを基にして効果的に内部監査を実施する方法とチェックリストを用意しました。以前の「TQMで経営に役立つISOシステム強化コース」を全面見直した、ISOシステムの有効性を高めることにお悩みの方々にも、内部監査員にもお奨めのコースです。			
プロ	ログラム	① TQMの「方針管理」で強化 ・「方針管理」とは ・規格4.1項、4.2項、6.1項、6.2項を強化する ② TQMの「日常管理」で強化 ・「日常管理」とは ・規格4.4.項を強化する		③ TQM 視点での内部監査ポイント④ 事業成功のためのQMS (概論)・顧客価値マネジメントとは?	
予	定講師	丸山 昇		定員	100名
	日程	開催日		時間	申込締切日
	口住	2025年5月30日(金) 13:00~		16:00	2025年5月22日 (木)
	、ワーク・ ープワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶ 「TOM 視点で内部監査を実施する」とはどのようなことかを理解するためにセミナーに参加しました。「方針管理」、「日常管理」の視点で作成された監査チェックシートは非常に有用なもので、実際の監査に活用したいと思います。
- ▶時間が半日となったが、逆に凝縮された内容になり、講習・テキストともに分かりやすかったです。

M-44

品質工学 パラメータ設計 ~効率の良い設計を実現するための手法~

オンライン

40

参加対象者	●設計担当者 ●工程設計(生産技術)担当者 ●品質保証担当者(品質工学の導入推進者)			
コース概要	品質工学(田口メソッド)の代表的な手法である、パラメータ設計について、具体的な事例を元に基礎的な考え方、SN比の計算方法などを学習します。 パラメータ設計とは、設計(又は工程設計)におけるパラメータ(要因)の最適水準を効率よく求める方法です。			
プログラム	・パラメータ設計とは? ・直交表の使いた ・基本機能の考え方 ・SN比の計算方 ・強い誤差をかけるとは? ・実験事例による			
予定講師	越山卓		定員	100名
D40	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年8月29日(金)	13:00 ~	16:00	2025年8月21日 (木)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶講師の方が基本的な考え方を繰り返し述べられていてイメージがしやすく、初心者としては入り込み易かった。
- トパラメータ設計の機能について 図形を使った説明、例を使った品質特性、基本機能の考え方により 誤差因子の要因などの重要性の理解がしやすかったです。
- ▶セミナー後、参加者で内容の議論が出来た。 みなの関心を引き出せる内容で良かった。

M-45 新QC七つ道具概要解説コース

参加対象者	生産部門・管理間接部門の担当者 他			
コース概要	「新 QC七つ道具」とは、①連関図法、②親和図法、③マトリックス・データ解析法、④マトリックス図法、⑤ 系統図法、⑥アロー・ダイヤグラム法、⑦ PDPC 法の7つの手法の総称です。新 QC七つ道具は、数値・言語データを抽出する前に問題をどのように整理するか、潜在ニーズを自ら課題に仕立てる「考えるためのQC 手法」とも言われます。本コースでは、サービス業界や間接部門の方にも広く活用いただけるよう、取り組みやすい内容として、主に概論から連関図法、系統図法をメインに、その使い方をご紹介をいたします。			
プログラム	① 新QC七つ道具概論 ③ 連関図法 ② 新QC七つ道具と言語データ ④ 系統図法			
予定講師	高木 美作恵		定員	100名
D#1	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年6月5日 (木)	13:00 ~ 16:00		2025年5月28日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

▶言葉の解説が分かりやすかったです。 要因と原因の違いなど、つい使いがちな言葉の意味をしっかり設定することで物事を考える時の解像度が上がると思えました。 ▶QC検定を受験しようと考えており、道具の種類・使い方を体感できたのは貴重でした。

M-46 品質工学(タグチメソッド)概要解説コース

参加対象者	●製造業の技術、設計開発ご担当者 ●製品開発、研究、品質管理ご担当者		
コース概要	QE (品質工学)の一つである"パラメータ設計"の基本的なアプローチの仕方(機能を測る、強い誤差をかける、たくさんのパラメータを一度に最適化する)を易しく解説します。また、QE的なものの見方は、マネジメントシステムの運用にも効果的であることをお話しします。設計・開発担当者でなくてもご参加ください。		
プログラム	① QE的なものの見方 ② パラメータ設計の手順		
予定講師	越山 卓 視聴時間 3時間		
個人ワーク・ グループワーク	なし パソコンの 準備 1台で複数名受講可能		

VOICE 参加者の声

- ▶実例を交えた説明で、品質工学のコンセプトが非常に理解しやすかったです。
- ▶品質工学の観点からの設計品質の作りこみの考え方について理解が深まった。 どの機能が品質に大きくかかわるのかを考えていくことが重要だと感じた。

新入社員2日間研修

参加対象者	新入社員(2025年度新卒者)			
コース概要	社会人としての基本ビジネスマナーを習得していただきます。			
プログラム	【1日目】		【2日目】 ~ビジネスマナー~ ·電話応対 ·来客応対・訪問時のマナー ·チームに貢献する仕事の進め方 ·報告演習	
予定講師	株式会社インソース専門インストラクター		定員	30名ID
	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年4月10日(木)~11日(金)	5年4月10日(木)~11日(金) 1日目10:00~ 2日目 9:00~		2025年3月28日 (金)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

M-48 チームメンバーからチームリーダーへ (3~5年目社員研修)

参加対象者	入社3~5年目程度で、小人数のチーム	入社3~5年目程度で、小人数のチームリーダー、またはそれを目指す方		
コース概要	入社3~5年目の方を対象に、チームメンバーからリーダーになるためのマインドとスキルを学びます。仕事に慣れ、惰性や慢心、今後のキャリアへの漠然たる不安をいだく中で、仕事のレベルも上がり、後輩指導の責任も生じてくる3~5年目。そうした状況で、楽しく十分に力を発揮するために必要なマインドとスキルを学びます。			
プログラム	① 今までの自分の振り返りと今後の方向性 自分を振り返り、会社や周囲からの期待から必要な能力を確認し、今後の方向性を考える ② キャリア展望 キャリア観を職業(業種、業態)と役割責任(マネジメント、専門職、自営等)から確認し、①を踏まえて自分のミッションを考える ③ 学び方と後輩指導 ● 学び方を学ぶ ● SL理論、コーチングを踏まえた後輩指導について学ぶ		 ④ チームワーク チームの力学を確認し、リーダーシップとフォロワーシップ発揮のポイントを学ぶ ⑤ アクションプラン ● チームリーダーとして目指すところを確認する ● そのための第一歩(明日からできること)を考える 	
予定講師	福島 伸		定員	30名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年9月2日(火) 10:00~		16:30	2025年8月25日 (月)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶部下や後輩ができた際の接し方のサンプルを多く知れた。▶他社の方と会話する機会もあり、有意義な時間となりました。
- ▶様々な職種の方たちと意見を交わすことで自分の持つていない考え方を知ることができ新たな価値観の構築ができた。

M-49 1on1ミーティングの進め方

参加対象者	●人事担当者●人材育成や部下とのコミュニケーションに悩んでいる管理職、グループリーダー			
コース概要	「1on1ミーティング」とは、上司と部下が定期的に実施する1対1での対話です。効果的な「1on1ミーティング」を実践するためには、普段のコミュニケーションとは異なる意識、スキルが必要ですが、あまり固く真面目に考えずカジュアルに考えていただいたほうがいいと思います。本セミナーでは、「1on1ミーティング」が必要とされる背景を理解し、有効な実践方法を体得します。			
プログラム	 ①「1on1ミーティング」とは 1on1ミーティングが必要とされる背景、効果を 出すための心構えを理解する。 ② 扱うテーマ 1on1ミーティングで話すテーマについて基本領 域を学ぶ。 		③ 1on1実践演習 想定の部下情報をもとにロールプレイング(メンバーでの相互チェック)を行い、実践知を高めます。	
予定講師	福島 伸		定員	100名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年6月19日 (木) 13:00~		16:00	2025年6月11日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1人1台

VOICE 参加者の声

- ▶チャット形式での意見交換により他社様の状況や傾向が分かりやすい。
- ▶業務内容でもなくプライベートでもない一対一の会話の方法について知ることができてよかった。▶ 10n1で扱うべき9つのテーマやメンバーの成長を促す3つの支援など10n1を計画する上で指針となる考えを教えて貰えて助かりました。

日本型ワーク・エンゲージメントを考える

参加対象者	●経営者 ●管理者 ●現場リーダー				
コース概要	ワーク・エンゲージメントとは、活力に満ち、熱意があり、仕事に没頭している状態のことをいいます。ワーク・エンゲージメントが高いと優れた成果を生む可能性が高く、組織運営には欠かせない視点です。このセミナーでは日本の強みである共同体意識を土台にしたワーク・エンゲージメントのあり方を考えます。				
プログラム	② ワーク・エンゲージメントの重要性 ④ 日本型ワ		0	D変遷 ク・エンゲージメント再考 自発的改善、キャリア構築支援	
予定講師	福島 伸		定員	100名	
næ	開催日		時間	申込締切日	
日程	2025年12月16日(火) 13:00~16		16:00	2025年12月8日 (月)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1人1台	

VOICE 参加者の声

- ▶ミドルアップダウンを通じて組織として権限移譲を進め、個人が自己研鑽することがエンゲージメントを高め、ひいては組織を強くすることを学びました。
- ▶前半のワーク・エンゲージメントについては、とても共感できる部分もあり、参考になりました。後半部については、日本型について再認識し、良いところは再度取り入れていこうと感じさせられました。
- ▶日本的経営の変遷等、幅広く解説していただき良かった。

今日作って、明日から使う カンタンすぎる人事評価制度セミナー

	•			
参加対象者	●経営層 ●管理職 ●人事担当者			
コース概要	当コースで説明する「カンタンすぎる人事評価制度」は、たった一日で3種類の「人事評価表」が完成し、小学生でも評価できるほど評価のラクな人事評価制度であり、ISO9001との相性も抜群です。セミナーでは、既存の一般的な人事評価制度の問題点を認識したうえで、「カンタンすぎる人事評価制度」の策定方法を人事評価制度指導歴29年のQMS・EMS・FSMS主任審査員でもある社会保険労務士がレクチャーします。			
プログラム	(1) 99%の企業が間違っている人事評価制度の目的 (2) 人事評価制度の目的は人材育成。そして、組織の 目的達成 (3) 「要求力量のハードル設定」これこそ人事評価制 度の奥義 (4) 既存の評価制度の問題点 (5) 人事評価におけるプロセス評価とパフォーマン ス評価 (6) 人事評価制度もプロセス管理が重要		② 人事評価制度におけるプロセスアプローチの概念 ③ 人事評価制度に込めるのはAI・ITではなく「三つの想い」 ⑨ 組織を変えることができる人事評価制度 ⑩「カンタンすぎる人事評価制度」とは? ⑪「カンタンすぎる人事評価制度」の策定方法 ⑫「評価項目」と「評価基準」の策定ワーク ⑬「カンタンすぎる人事評価制度」による人材育成手法 ⑭ 他	
予定講師	山本 昌幸		定員	100名
D#2	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年9月25日 (木) 13:00~		16:00	2025年9月17日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶力量・知識・技能等到達表につきまして 特段の感銘を受けました。 是非とも弊社で採用できるようにしていきたいと思います。
- ▶管理職となったことで人材の評価が必要となりました。 まさに講師の方が紹介された評価基準で運用しており、部下の評価に困っていたところで参考になりました。

サステナブルな人的マネジメント ~人手不足に対抗するISO 30414 ~

アーカイブ

参加対象者	●経営企画部門 ●人事企画部門				
コース概要	事業の継続性確保に求められる、人的マネジメントのあり方について、以下の視座から解説します。 ①国際的な人的マネジメントの潮流 ②他社の取り組み実例と成果 ③SDGs、ESG、ISOで求められる人的マネジメント				
プログラム			③ 注目されるIS ④ 世界標準の浸		
予定講師	三浦 才幸		定員	100名	
D#1	開催日		時間	申込締切日	
日程	2025年12月11日 (木)	13:00 ~ 16:00		2025年12月3日 (水)	
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)	

VOICE 参加者の声

- ▶素人にも非常に分かりやすい構成になっており、集中して聴講することができ、欲していた内容が盛り込まれていたので助かりました。
- ▶最近の先進企業等の取り組みなども交えて動向が掴めたので良かった。
- ▶人事部門に聴講頂きたい内容ではありましたが、技術部門でも考えるべき内容が多く含まれており、非常に有益でした。

NEW ハラスメント防止(全体向け)

参加対象者	管理職以外の方			
コース概要	昨今はハラスメントに過敏になり、必要な指導や助言を怠るといったことが時々見られるようです。本セミナーでは、職場におけるハラスメントについて正しく理解し、ハラスメントのない職場環境はもちろんのこと、適切な規律のもと各自が活き活きと働ける環境をつくるために必要なことを考えます。			
プログラム	1. 職場におけるハラスメント 定義、現状、影響 3. ハラス 2. ハラスメントの防止 ①チェックリスト		3. ハラスメント	の防止 ②感情の扱い方
予定講師	福島 伸		定員	100名
n#	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年4月24日 (木)	13:00 ~	16:00	2025年4月16日 (水)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

●経営者 ●管理者 ●現場リーダー			
昨今はハラスメントに過敏になり、必要な指導や助言を怠るといったことが時々見られるようです。本セミナーでは、職場におけるハラスメントについて正しく理解し、ハラスメントのない職場環境を作ることはもちろんのこと、管理職が留意しなければならないことを中心に、各自が活き活きと働ける職場づくりに必要なことを考えます。			
		の防止 ③環境整備 の防止 ④感情の扱い方	
福島 伸		定員	30名
開催日		時間	申込締切日
2025年6月3日 (火)	10:00 ~	16:00	2025年5月26日 (月)
グループワークあり パソコンの 準備			1人1台
	昨今はハラスメントに過敏になり、必要なでは、職場におけるハラスメントについのこと、管理職が留意しなければならな考えます。 1. 職場におけるハラスメント 定義、野2. ハラスメントの防止 ①チェックリフ3. ハラスメントの防止 ②事例考察福島 伸 開催日 2025年6月3日(火)	昨今はハラスメントに過敏になり、必要な指導や助言をでは、職場におけるハラスメントについて正しく理解のこと、管理職が留意しなければならないことを中心考えます。 1. 職場におけるハラスメント 定義、現状、影響 2. ハラスメントの防止 ①チェックリスト 3. ハラスメントの防止 ②事例考察 福島 伸 開催日 2025年6月3日(火) 10:00~	昨今はハラスメントに過敏になり、必要な指導や助言を怠るといったことでは、職場におけるハラスメントについて正しく理解し、ハラスメントのこと、管理職が留意しなければならないことを中心に、各自が活き活き考えます。 1. 職場におけるハラスメント 定義、現状、影響 2. ハラスメントの防止 ①チェックリスト 5. ハラスメント 3. ハラスメントの防止 ②事例考察 福島 伸 定員 開催日 時間 2025年6月3日(火) 10:00 ~ 16:00

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

総合的リスク管理

日にち限定 アーカイブ

参加対象者	全般			
コース概要	みなさんの組織では、同じ失敗を繰り返していませんか?「過去の振り見て未来の振り直せ」と簡単に言うけれ ど、未来の振りを直すにはちょっとしたコツが必要なのです。そのコツを伝授するのが失敗学です。 本コースでは、失敗とうまく付き合い、そこから有益な知識を得る方法、同じ失敗を繰り返さない方法、未然 防止の方法、失敗知識の伝達・活用方法について解説いたします。			
プログラム	①失敗の必然性 ②失敗学のエッセンス			
予定講師	岩松 正治		定員	150名
	開催日開催		催形式	申込締切日
	2025年4月15日(火) 9:00 ~4月17日(木) 19:00	日にち限定アーカイブ		2025年4月7日 (月)
日程	2025年10月7日(火) 9:00 ~10月9日(木)19:00	日にち限定アーカイブ日にち限定アーカイブ		2025年9月29日 (月)
	2026年1月14日 (水) 9:00 ~1月16日 (金) 19:00			2026年1月6日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶失敗学のフレームワークがとても勉強になりました。現場に持ち帰って、分析に用いてみようと思います。
- ▶事例が分かりやすく、ヒューマンエラーの動機的原因を中心に説明頂いたので、大変参考になった。
- ▶とても有意義なセミナーになりました。 特に原因の特定にあたり、なぜなぜ分析をすることがありますが、そこに失敗学を加えることで新しい視野や考えができそう だと感じております。
- ※受講時間帯は自組織の規定に従って行ってください。

● 日にち限定アーカイブとは

限定された期間内でご視聴いただくセミナーとなっております。

● 日にち限定アーカイブ視聴までの流れ

【お申込み】→ 1 週間程前に視聴 ID / PW を送信します。→当日、デリバルにログイン後、期間内で全ての動画を視聴ください。→ 視聴後アンケートのご提出

※当コースには受講証明書は付きません。

リスクマネジメントの基本

アーカイブ

参加対象者	●経営層 ●経営幹部 ●管理職 ●マネージャークラスの方々			
コース概要	昨今、リスクマネジメントの概念が、あらゆる分野に導入されています。しかしながら、リスクマネジメントは比較的新しい分野であるということと、これまで様々な適用分野毎に発展してきたという歴史があり、概念や用語が分野毎に異なっており、非常に学習が難しい分野です。本コースは、それらの概念、用語を比較・整理しながら、基本的なリスクマネジメントの概念と手法を解説します。また、一般的に陥りやすい「リスクマネジメントの罠」を紹介し、有効なリスクマネジメントの進め方について解説します。			
プログラム	① リスクとは② リスクに関わる基本用語③ リスクマネジメントプロセス	④ リスクアセスメント手法⑤ リスク対応とインシデント対応⑥ リスクマネジメントの罠		
予定講師	村上 治	視聴時間	4時間	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶丁寧な□調でとても聞き取りやすかったです。リスクマネジメントの基本を習得することができ、業務への実践につなげていくことができると感じた。
- ▶基本的な内容から始まり、リスク特定の手法と共に実例を含めたご説明で判り易かった。

総合的リスク管理 アーカイブ

参加対象者	●経営層 ●経営幹部 ●管理職 ●マネージャークラスの方々			
コース概要	BCPを作成していても、年1回、安否確認と避難訓練をやっている程度で本当にBCPが機能するのかと心配している企業が多いのでは?本コースでは、BCMを有効にするための方法としての、BCMの基本から活動の実施までを解説します。また日本では単一の災害・事故にだけ対応したBCP(地震BCPなど)が一般的ですが、欧米で主流である、複数の災害・事故に対応できるマルチハザード対応についても解説します。			
プログラム	 事業継続とは リスクとインシデント BCP策定プロセス 	④ マルチハザード対応⑤ 訓練と演習の実施⑥ 事業継続の有効化のポイント		
予定講師	村上 治	視聴時間	3時間30分	
個人ワーク・ グループワーク	なし	パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能	

VOICE 参加者の声

- ▶事業継続での大事なところが理解できた。
- ▶BCPの定義について、新しい見方を知ることができた。理論的には分かりやすかったが、計画策定にあたっての具体的内容がもう少しあるといいと思う。

(受講される方は全員申し込み必須)

参加対象者	●現場の管理者・監督者・作業者 ●ISO推進責任者及び担当者 ●品質保証関係者 ●内部監査員			
コース概要	マネジメントシステムの運用において、是正処置を実施すること、すなわち問題の真の原因を追究し、再発防止策を講じることは大変重要なポイントです。本セミナーでは、効果的な是正処置の方法を全般的に解説します。その中で、最近特に必要性の高まっている"ヒューマンエラー"に関しても、その原因追求と再発防止する方法論について解説します。			
プログラム	1. 効果的な是正処置 ① 原因分析の実際 ② 効果的な対策の打ち方		2. ヒューマンエラー(ポカミス)対策 エラープルーフ化の原理と対策、他	
予定講師	丸山 昇		定員	100名
	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年7月11日(金)	13:00 ~	16:00	2025年7月3日 (木)
	2026年1月27日(火) 13:00~		16:00	2026年1月19日 (月)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講

※セミナーの一部に動画が含まれる場合がございます。予めご了承ください。

VOICE 参加者の声

- ▶ヒューマンエラーについて、今回の様に掘り下げて向き合ったことが無かったので、具体的な対策や知識を得られたのはとても有意義に感じました。▶自社の例と照らし合わせ、考えながら受講できる良いセミナーであり、参加者の各是正対策コメントに対し、フィードバックが丁寧であった。▶事例がとても分かりやすく自社にも置き換えて考える事ができました。

有効な是正処置 具体事例をもとに考える

アーカイブ

参加対象者	●マネジメントシステムの運用に携わる方 ●内部監査員			
コース概要	是正処置プロセスの目的、役割などについて、具体事例をもとに「効果的な是正処置とは?」について理解を深めましょう。			
プログラム			④ 再発防止策の立案、実施⑤ 有効性の確認	
予定講師	横沢 俊一		定員	100名
D#	開催日	時間		申込締切日
日程	2026年1月21日 (水)	10:00 ~ 16:00		2026年1月13日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり	人ワークあり		1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

VOICE 参加者の声

- ▶ QuickSARFER手法の演習が役にたった。実際に演習で情報整理、背後要因など考えて対策することで理解も深まった。
 ▶ ヒューマンエラーを人間特性、心理面からアプローチする考えは新しい気づきでした。 ヒューマンエラーの発生メカニズム、QuickSAFERによる原因分析と背景要因関連図と対策シートはとても勉強になりました。また職場の雰囲気(心理的安全性)も大切なことが理解できました。
- ▶有効的な是正処置と聞いていたので、是正処置の方詳しい実施方法かと思ってましたが、是正処置というよりはその周辺情報(情報ビット数やネイマールの実験など) の方が多かったように感じました。

参加対象者	全般			
コース概要	IEによる対象の見方と考え方を学びます。			
プログラム	① IEとは何か ② IE手法の活用			
予定講師	木内 正光 定員			100名
日程	開催日	時間		申込締切日
口性	2025年9月8日 (月)	13:00 ~	16:00	2025年8月31日 (日)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講

NEW VE研修(1日コース)

総合的リスク管理

参加対象者	●企業・団体の収益改善に取り組んでいる方 ●顧客価値を高める製品やサービスを追求している方			
コース概要	VE (Value Engineering) は直訳しますと「価値工学」ですが、「製品やサービスなどの価値を向上させる技術」です。製品やサービスの果たすべき「機能(役割・働き・目的)」とそのためにかける「コスト」の関係を把握し、システム化された手順で「価値」を向上する技術です。研修ではVEの考え方・進め方の基本を解説いたします。			
プログラム				能とコストの分析など アイデア発想・評価方法など
	丹澤 一昭			
予定講師	丹澤 一昭		定員	100名
J Zanski	丹澤 一昭 開催日		定員 時間	100名 申込締切日
予定講師	7371	10:00 ~	時間	

J-Club アカデミア

全6コース

A-1 戦略的リスクマネジメント概論

総合的リスク管理

オンライン

参加対象者	●管理者 ●マネージャークラス			
コース概要	企業が戦略を策定し、実行に移すときに遭遇する不確実性がますます高まっています。そのため、経営戦略・事業戦略と連動して、それを支援するためのリスクマネジメントが求められます。この領域で先進的な動きを見せる米国RIMSの考え方に基づいて、戦略的なリスクマネジメントの基礎を学びます。			
プログラム				マネジメントを導入する メント体制の成熟度を知る
予定講師	神田良		定員	30名
日程	開催日	開催日 時間		
口性	2026年2月4日 (水)	10:00 ~ 16:00		2026年1月27日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり	パソコンの準備		1人1台

- ※事前学習があります。学習内容は開催前にご連絡いたします。
- ※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

戦略型リーダーになるための経営戦略論

リーダーシップ・マネジメント

	1			
参加対象者	●管理職 ●マネージャークラス			
コース概要	中間管理者(ミドルマネージャー)は企業にとって、企業戦略を実現するための要です。こうした役割を果たすためには、経営戦略論の基礎を理解するだけでなく、どのようにして戦略を実現するかも知らなければなりません。常規的な計画の実現に従事するマネージャー(マネージする人)から、事業の変革に向けて組織を導くリーダーになるために経営戦略の基本を学ぶとともに、事例を通して実践的な応用力も身につけます。			
プログラム				ディ 2 −事業を創造する− 略と自分の役割を考える
予定講師	神田 良		定員	30名
D#	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年7月2日 (水)	10:00 ~ 16:00		2025年6月24日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

- ※事前学習があります。学習内容は開催前にご連絡いたします。
- ※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。
- VOICE 参加者の声
- ▶過去の成功者を具体的な事例としたディスカッションで、受講生のお考えや講師の補足によって、理解が深まり非常に有意義でした。
- ▶グループ討議等、他社の方の意見など聞くことができ新鮮さを感じた。
- ▶分かりやすい資料で理解し易かったです。

マネジメントシステム運用に有効な KPIの設定とその管理

リーダーシップ・マネジメント

	•			
参加対象者	●経営層 ●マネージャー層 ●マネジメントシステム運用ご担当			
コース概要	ISOマネジメントシステムの取組みが組織の業績向上につながっていますか?あるいは、目標管理の有効性を実感していますか?本コースでは、組織の業績向上につながる目標設定やその目標達成に有効なKPIの設定と管理手法について解説します。			
プログラム	① マネジメントシステムの運用における ② KPIマネジメント	課題	③ BSCとKPI ④ KPIを活用した内部監査	
予定講師	近藤明人		定員	30名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年6月27日(金)	10:00 ~	16:00	2025年6月19日 (木)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶組織の目標設定についてしつくり来ていないことが数年続いていた。成果もあまり実感できないことが続いていたが、本セミナーを通じてそもそもの設定方法が間違っ ていたことに気づくことができました。
- ▶ KPIの重要性、成果KPI・プロセスKPIの因果関係の必要性など理解を深めることができた。

持続可能な調達に必要なマネジメント

サステナビリティ

参加対象者	●管理責任者 ●事務局、ESG(SDGs)推進担当者 ●調達(購買)担当者				
コース概要	企業は、ESGやSDGsの取組みに関連して持続可能な調達の対応が求められています。しかしながら、持続可能な調達の対応すべき事項・範囲は多岐にわたり、どのように取組めばよいのか分かりにくい状況です。そこで、本セミナーでは、持続可能な調達マネジメントにおける重要事項に関して、どのようなステップで取組めば良いのかを解説します。				
プログラム				周達マネジメントの重要事項 周達マネジメントのステップアップ	
予定講師	近藤明人		定員	30名	
日程	開催日		時間	申込締切日	
口性	2025年6月13日(金)	10:00 ~	16:00	2025年6月5日 (木)	
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台	

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶グループワークの時間を多く取っていただき、具体的な事例研究が出来たので、規格が求めている事のイメージがつかみ易かったです。
- ▶持続可能な調達をどのような視点で考えていけばよいのか、を理解することができ大変勉強になりました。グループワークを行ったことで、より自身の業務との関連を
- ▶他のセミナーにはないグループワークがあったため良い緊張感でセミナーに望めたので良かった。また、他の業界の方と意見交換することにより違った視点のコメントがあったり、見ているポイントが異なるので参考になりました。

SDGs入門編: SDGsの概要を学ぶ

サステナビリティ

参加対象者	全般			
コース概要	企業が社会的責任を果たし、成長するには、SDGs(持続可能な開発目標)の取組みが必須の要件となっています。このことは、企業の規模や業種に関係なく取組む必要があります。そのためには、SDGsを正しく理解する必要があります。本セミナーでは、SDGsの入門編と位置付けて、SDGsが国連で採択された背景やその概要、我が国におけるSDGsの取組みの現状や課題について解説します。			
プログラム	① SDGsとは?(国連で採択された背景) ④ 企業が取組ま ② SDGsの概要 (ISO MSと関 ③ 我が国の現状と課題			なければならないこと 関連付けて)
予定講師	近藤明人		定員	100名
D40	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年4月18日 (金)	10:00 ~	16:00	2025年4月10日 (木)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

※個人ワーク後、マイク等で発表いただく場合がございます。

VOICE 参加者の声

- ▶企業としてSDGsに取り組むことが、これからの時代を生き残るための生存戦略として極めて重要であることを改めて認識することが出来ました。品質保証の1担当者 として今後何をしていくべきか、考えるいい機会となりました。

 ▶ SDGs に対する基本的な知識に加えて、今後の日本の対策や気候変動に対する教授の見解なども聞けたのでとてもためになったと思います。
- ▶ CSR、SDGs、サスティナビリティ、ESGといった用語が多く、混乱しておりましたが、先生の話を聞いて、ずいぶん理解しました。

持続可能なマネジメントシステムと バリューチェーン統合による気候変動対応

サステナビリティ

ı				
参加対象者	●経営層 ●マネージャー層 ●マネジメントシステム運用ご担当			
コース概要	この研修は、ISOマネジメントシステム規格を活用している企業が気候変動に対応するための戦略と実践方法を学ぶことを目的としています。特に、バリューチェーン管理と持続可能な調達を含む、気候変動対応のためのマネジメントシステムのアップデートに重点を置きます。参加者は、気候変動がビジネスに及ぼす影響を理解し、リスクと機会を特定する方法を学びます。また、TCFDやGXなどの気候変動関連制度の動向を検討し、企業の戦略、運営、供給網に気候変動対策を統合するための実践的なアプローチを習得します。持続可能な調達の重要性とその実装方法についても解説し、総合的な持続可能性の観点から企業活動を再構築する方法を提供します。			
プログラム	(Annex SL Appendix 2の改定とそ ② 気候変動関連制度の動向 TCFDとその影響 GX (グリーン・トランスフォーメー) 概要	① オープニングセッション 研修の目的と概要 気候変動とISOマネジメントシステムの関連性 (Annex SL Appendix 2の改定とその意義) ③ 気候変動とビ 気候変動が企 リスクと機会 4 持続可能なバ 気候変動対応 気候変動対応 グリーンサプ ⑤ 持続可能な調		業活動に及ぼす影響 の特定方法 リューチェーンの統合 とバリューチェーン管理 ライチェーンの構築 達の実践 達の原則と実装 との連携強化
予定講師	近藤明人		定員	100名
日程	開催日		時間	申込締切日
口任	2025年7月30日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年7月22日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり		パソコンの 準備	1台で複数名受講可能 ※1端末:個人受講 ※1端末:複数名での社内研修受講 (受講される方は全員申し込み必須)

※個人ワーク後、マイク等で発表いただく場合がございます。

VOICE 参加者の声

- ▶専門家からのご講義で勉強になりました。ISO14001を運用しており、ある程度のことは理解していたつもりですが、抜けている情報などが補完できてよかったです。
- ▶TCFDやISO20400とISO9001、14001の要求事項との関連が分かりやすく説明いただけました。
- ▶全く気候変動(環境問題)の過去の経緯やグローバルな動きが分かってない自分には素晴らしい講座であった。

J-Club 講演会



参加対象者	●管理責任者クラスの方 ●ISO推進事務局の方 ●内部監査員の方			
コース概要	時宜を得た基調講演を企画予定です。			
プログラム	詳細につきましては後日ご案内いたします。			
予定講師	未定 定員		100名	
日程	開催日		時間	申込締切日
口任	未定	未定		未定
個人ワーク・ グループワーク	なし		パソコンの 準備	1 台で複数名受講可能

J-Club講演会 過去開催テーマー覧

年度	テーマ		
2024	MSセルフアセスメント ~マネジメントシステム改善に向けた新たなツールを目指して~		
2023	「エッセンシャル9001」モデルの提唱とその実践 ~ ISO9001 の構造に「顧客価値」の考えを吹き込んだ経営に貢献する QMS の効果的な運用~		
2022	ISOにおける全社的リスクマネジメント		
2021	テーマ1: SDGsの取り組み テーマ2: 顧客価値創造		

~サイエンススイーツに挑戦!~

参加費

自然科学のちからで簡単にカラフルな シュワシュワサイダーゼリーをつくろう!

2025

オンライン開催

08.02 =

10:00~11:30

日科技連・ISO審査登録センターでは、登録組織に在籍されている方々のお子様を対象 に、オンライン(Zoom)でご自宅から参加可能な、「J-Club Kidsプログラム」を本年度 も、開催いたします!今回ご協力いただく『株式会社S-Lab.』はお菓子作りのワクワク! ドキドキ!を理科実験に結びつけ、「深く考え行動する力」と、「多角的に物事を捉える カ」と、「自分を好きになるカ」を育む新しいスタイルのSTEAM教育教室です。

定員

先着30名様(基本お子様1人1端末でお願いします)

対象

小学校1年生~6年生※保護者の方とご参加ください。

ご自宅よりオンラインで参加ください: Zoom開催 ネット環境があれば、**日本全国**より参加可能です!

プログラム内容

通常、カラフルな多層のゼリーを作るときは1層ずつ冷やし固めていきます が、今回はシロップ液の比重を変えることで、層ごとのゼリー液をつくらず に、簡単にキレイな多層ゼリーを作ります。

また、「比重」についての理解を深められるよう、野菜や果物を使った実験も 行います。

郵送内容:

・自由研究用まとめ用紙

・レシピ

イベントの流れ

- 1. キッズ博士に今回のミッションの説明とお願い!
- 2. 【製菓】カラフルで綺麗な多層サイダーゼリーを作ろう!
- 3. 【実験】自分の考えを伝えることを大切に、比重についての 実験をやってみよう!!

ご用意いただくもの

●製菓※詳細はレシピをご確認ください。 透明ゼリーカップ:4個、サイダー、砂糖、

お好みのフルーツ1種類以上(事前に冷凍、冷凍フルーツ可)

かき氷シロップ2種類

●実験:野菜やくだものを3種類以上 ※左記が入る大きなボウル・鍋など

申込はこちらから!

●申込開始:2025年3月13日(木)





52

▶ ●申込締切:2025年7月24日(木)

【J-Club無料セミナーお問合せ先】

ISO審査登録センター 管理部 品質保証課J-Club事務局

<u>j-club@juse.or.jp</u>

J-select 全28コース

S-1	品質管理の基本		アーカイブ
コース概要	品質管理の考え方と基礎知識を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	加藤 洋一	視聴時間	3時間
プログラム	1.品質管理とは 2.科学的な品質管理 3.日本の品質管理に育てる 4.日本の品質管理の特徴 5.質:製品 サービス 仕事 6.QC的ものの見方・考え方 7.マーケットイン 8.後工程はお客様	9.品質第一 10.プロセス重視 11.プロセスの考え方 12.工程の管理 13.事実に基づく管理 指向、源流管理 14.QC手法の活用	(データで事実をつかむ)重点
アーカイブセミナー	1 年間祖軸可能		

S-2	品質保証の基本		アーカイブ
コース概要	品質保証の考え方と基礎知識を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	加藤 洋一	視聴時間	3時間
プログラム	1.品質保証に関するあなたの立場は? 2.品質保証 3.品質管理と品質保証(歴史) 4.最初の頃の、品質保証の定義(JIS規格) 5.現在の品質保証の定義(JIS) 6.品質保証書は、品質保証なのか 7.品質保証(信用を伝える) 8.品質管理での「品質保証」 9.品質保証します、というためには 10.対象となる業務は 11.設計段階での品質保証	12.検査による品質保 13.工程解析・工程管 14.工程の要素(プロ 15.工程の管理 16.異常(いつもと違 17.品質保証とISO 9 18.品質保証の方法 19.JIS マークの表示 20.万が一、品質保証 21.商品企画設計段階	理による品質保証 セスアプローチ) う、という意味) 001 の品質マネジメント できなかったとき
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

S-3	問題解決の基本		アーカイブ	
コース概要	問題解決の基礎を学びます。			
参加対象者	●一般社員 ●中堅社員(監督職など)			
講師	恵畑 聡	視聴時間	3時間	
プログラム	1.問題解決の重要性 1.1 問題解決の重要性 1.2 問題の分類 2.問題に対する考え方 2.1 問題とは何か 2.2 問題を定義する 2.3 問題を認識するためのヒント	3.問題解決の進め方 3.1 問題解決の手順 4.課題達成の進め方 4.1 課題達成の手順 5.問題解決における G	į	
アーカイブセミナー	1年間視聴可能			

S-4	データのとり方・まとめ方	ī	アーカイ
コース概要	データ分析の基礎としてのデータの取り方、まとめ方を	学びます。	
参加対象者	全般		
講師	藤田 敬泰	視聴時間	3時間
プログラム	1.はじめに 2.データを取る目的 3.QC的モノの見方・考え方 4.データの種類 5.データの「バラツキ」	6. 「母集団」と「サン 7.データと「誤差」 8.基本統計量とグラフ 9.データの取り方・ま	7

S-5	やさしいQC手法2(新Q	(C七つ道具	アーカイブ	
コース概要	新QC七つ道具をやさしく学びます。			
参加対象者	全般			
講師	恵畑 聡	視聴時間	3時間	
プログラム	1.新QC七つ道具概論 2.言語データ 3.親和図法 4.連関図法 5.系統図法	6.マトリックス図法 7.マトリックス・デ 8.アロー・ダイヤグ 9.PDPC法 10.まとめ	一夕解析法	
アーカイブセミナー 1年間視聴可能				

S-6	標準化の基本		アーカイブ
コース概要	標準化の考え方や進め方を学びます。		
参加対象者	●一般社員 ●中堅社員 (監督職など)		
講師	恵畑 聡	視聴時間	3時間
プログラム	1.標準と標準化 1.1 標準・標準化と社内標準化 1.2 標準と標準化の定義 1.3 社内標準化の原則、効果 1.4 企業活動における社内標準化の位置づけ 1.5 社内標準化の管理と運用 2.社内標準の整備方法 2.1 社内標準の分類と体系 2.2 社内標準の作成の流れと標準の定着・改善 2.3 社内標準の作成時のポイント 2.4 社内標準の様式、記載方法	する標準 3.3 設計から出荷ま	

S-7	日常管理の基本		アーカイブ
コース概要	業務の質と効率を向上する日常管理の進め方を学びます	0	
参加対象者	マネージャー		
講師	村川 賢司	視聴時間	3時間
プログラム	I. 日常管理とは Ⅱ. 日常管理の進め方	Ⅲ.日常管理と方針管: IV.日常管理の推進	理
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-8	標準化と日常管理		アーカイブ
コース概要	仕事の質向上に必須の標準化と日常管理について学びま	す。	
参加対象者	全般		
講師	恵畑 聡	視聴時間	3時間
プログラム	1.標準化と日常管理の概要 2.5S 2.1 5Sとは 2.2 5Sの目的 3.標準化 3.1 標準と標準化 3.2 社内標準の整備方法 3.3 品質管理と社内標準	4.日常管理 4.1 日常管理とは 4.2 日常管理の考え 4.3 日常管理の進め 4.4 日常管理の推進 4.5 QC工程表 4.6 日常管理におけ)方
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

2-9	万軒官理の基本		アーカイン
コース概要	マネージャー必須の方針管理の基本を学びます。		
参加対象者	マネージャー		
講師	村川 賢司	視聴時間	3時間
プログラム	I. 方針管理とは Ⅱ. 方針管理の進め方	Ⅲ. 方針管理の推進 Ⅳ. 方針管理と日常管理	
アーカイブセミナ	一 1年間視聴可能		

2. QCサークルの基本 2. QCサーク 3. QCサーク 4. QCサーク		
講師 岡田 高美 視聴時間 【第1部】 【第2部】 1. QCサークル発展の歴史 1. QCサーク 2. QCサークルの基本 2. QCサーク 3. QCサーク 4. QCサーク		
【第1部】 1. QCサークル発展の歴史 2. QCサークルの基本 2. QCサーク 4. QCサーク 4. QCサーク		
1. QCサークル発展の歴史 1. QCサーク 2. QCサークルの基本 2. QCサーク 3. QCサーク 4. QCサーク		3時間
プログラム 5. QCサーク 6. QCサーク 7. QCサーク 8. QCサーク 9. QCサーク 10. QCサーク	ルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル	動計画の作成 おける管理・改善活動 動のまとめ方 会 流会 自己評価

S-11	はじめてのQCサークル推	進者	アーカイブ
コース概要	QCサークルを円滑に進め、活性化させる推進者の役割	を学びます。	
参加対象者	QCサークル推進者		
講師	岡田 高美	視聴時間	3時間
プログラム	【第1部】 1. QCサークルの基本 2. QCサークルの指導・育成の考え方 3. QCサークル活動と職制の活動 4. QCサークル育成上の留意点 5. QCサークル会合のための支援 6. QCサークル発表の講評	【第2部】 1. 活性化とは 2. 魅力あるQCサー 3. 達成感を味わうた 4. 達成感のための管 5. 活性化のための推 6. QCサークルの活動	めのサイクル 理者・経営者の役割 進者の役割
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

S-12	未然防止の基本		アーカイブ
コース概要	トラブルを起きる前に防ぐ「未然防止」を基礎から学び	ます。	
参加対象者	マネージャー		
講師	鈴木 和幸	視聴時間	3時間
プログラム	・品質経営とモノづくりの目的 ・未然防止への動機づけと三視点 ・予測に基づく未然防止		
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

S-13	品質とヒューマンファクタ	-	アーカイブ
コース概要	ヒューマンファクターの基礎知識を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	渡辺 顯	視聴時間	3時間
プログラム	1. 品質と安全・安心 ・企業発展と品質、安全・安心 ・品質管理について 変遷、定義、品質マネジメントシステム	2. ヒューマンファクター ・人間の特質・行動、M-SHELモデル ・ヒューマンエラー ・リスク、コンプライアンス 3. 品質文化 ・安全文化と品質文化	
アーカイブセミナー	1 年間視聴可能		

S-14	商品企画七つ道具の基礎		アーカイブ
コース概要	商品企画の手順と手法の基礎を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	石川 朋雄	視聴時間	3時間
プログラム	1. 魅力品質、感動商品の企画 2. 商品企画七つ道具の手法 3. 商品企画七つ道具の事例		
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

S-15	事業戦略立案		アーカ
コース概要	事業戦略立案に必要な分析や立案法の基本を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	長島 牧人	視聴時間	3時間
プログラム	第一部 分析ツール類の説明 企業戦略に使われる分析ツール ① プロダクト・ポートフォリオ ② 業界構造分析(ファイブ・フォーセズ) ③ コアコンピタンス経営 ④ アドバンテージ・マトリクス	事業戦略に使われる分 ① バリューチェーン ② 3C ③ SWOT分析 ④ ブルーオーシャン ⑤ 破壊的イノベーシ ⑥ 4P 第二部 戦略構築の手	ン 戦略

S-16	はじめての発想法		アーカイ
コース概要	アイデアを出す時の効果的手段である発想法を学びます。	0	
参加対象者	全般		
講師	石川 朋雄	視聴時間	3時間
プログラム	はじめに アイデア発想法の手法 ①ブレーンストーミング ②ブレーンライティング ③表形式発想法	④焦点発想法⑤発想チェックリス⑥アナロジー発想法⑦シーズ発想法	

S-17	段取り力講座		アーカイ
コース概要	仕事の基本である段取りの考え方と作り方を学びます。		
参加対象者	全般		
講師	恵畑 聡	視聴時間	3時間
プログラム	 はじめに 「段取り術」とは 段取り思考 (1) 段取り思考ができる人の特長 4. 段取りを実践するために (1) 段取りを実践するための5つのポイント (2) 段取りの7つのステップ 段取りの質を向上する (1) 段取りは「How」ではなく「Why」 (2) 段取りはムダ取り(7つのムダ) (1) 日本のはなくののの (2) 段取りはムダ取り(7つのムダ) (1) 日本のはなくの (2) 段取りはムダ取り(7つのムダ) (3) 日本の (4) 日本の人が、 (5) 日本の人が、 (6) 日本の人が、 (7) の人が、 (7) の人が、 (7) の人が、 (7) の人が、 (7) の人が、 (7) の人が、 (7) のより、 (7) のより、	(2) 仕事を見えるイ (チェックリス (3) 段取りの仕組。 (ガントチャー	を持つ (親和図法、系統図法) とする、仮説を立てる ト、マトリックス図)

S-18	コストマネジメントの基本	Z	アーカイブ
コース概要	コスト管理で知っておきたい「コストマネジメント」の考え方を学びます。		
参加対象者	●中堅社員(監督者など) ●マネージャー		
講師	伊藤和憲	視聴時間	3時間
プログラム	1. ICMの体系とコストマネジメントツール 2. 原価企画 ①原価企画のフェーズ ②キヤノンの原価企画体系 ③新製品開発プロセスにおける許容原価・成行原価・ 目標原価 ④目標原価のタイプ	3. ABC/ABM/ABB ①伝統的原価計算 ②ABCの計算シス· ③ABCからABM/ ④ABBの考え方	テム
アーカイブセミナー	1年間視聴可能		

S-19 管理の考え方と進め方

アーカイブ

コース概要	マネジメントの根幹である「管理」を見直します。		
参加対象者	●中堅社員(監督者など) ●マネージャー		
講師	光藤 義郎	視聴時間	3時間
プログラム	1. 管理の考え方 2. 管理の進め方	3. まとめ	

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-20 品質管理教育の進め方

アーカイブ

3-20	m只日在秋月V/EV//		
コース概要	品質管理を普及する教育の進め方を学びます。		
参加対象者	マネージャー		
講師	村川 賢司	視聴時間	3時間
プログラム	序. 組織における人材とTQM / 品質管理教育 1. 品質管理教育におけるトップの役割 2. 人を育てるための3つの仕組み 3. 中長期的視点に立脚した人材育成計画 4. 多様な研修プログラムの工夫と実際 5. 品質管理教育の評価・改善 6. 品質管理教育の実践	結. 健全な組織文化を 組織の持続的発展を支 人材育成 -品質を核にする教育の	える

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

3-21	「QMの基本		アーカイン		
コース概要	TQMの基礎知識を学びます。導入や再構築を進める企業の方にお勧めです。				
参加対象者	全般				
講師	光藤 義郎	視聴時間	3時間		
プログラム	 TQMと品質経営 TQMの進化プロセス TQMの内部構造 	4. TQMの基本的考え (1) Qの考え方 (2) Mの考え方 (3) Sの考え方 (4) Tの考え方 5. TQM推進の留意点			

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-22 顧客価値を創造する マネージャーの役割と行動

アーカイブ

コース概要	競争に勝ち抜くマネージャーに求められる役割と行動を学びます。			
参加対象者	マネージャー			
講師	永原 賢造 視聴時間 3時間			
プログラム	(利益を生み出す) 顧客価値創造 1. 顧客価値創造とは 2. 品質/質、品質保証の構造理解 3. 未知価値創造へのチャレンジ	 休曜時间 3時间 ◆マネージャーの役割 4.マネジメントとは 5.マネージャーの役割・責任 6.マネージャーに必要なスキル・意識 7.実践事例展開(自身を磨く) ※付録、日本の国際競争力(立ち位置:参考) 		

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

C_23 新製品・新サービスの開発管理の基本

60

3-23	利 秋 川 利 7 一 八 7 7 7 7	5 日 24 4 7 4 4 4	7 77 1 7		
コース概要	新製品開発をより効果的・効率的に進めるためのプロセスづくりの考え方やツールを解説します。				
参加対象者	全般				
講師	永原 賢造	視聴時間	3時間		
プログラム	規格の制定のねらい 規格制定の経緯 3.2 新製品・新サービス開発管理とは 4.1 TQMにおける新製品・新サービス管理の役割 4.2 顧客価値創造の基本的な考え方 4.3 新製品・新サービス開発プロセスにおける重要な マネジメント活動 5.1 開発プロセスの見える化 5.2 新製品・新サービスの企画と潜在ニーズの把握 5.3 プロジェクトマネジメント	5.5 設計における標準 5.6 デザインレビュー 5.7 ばらつきに対して 5.8 部門間連携と情報 5.9 初期流動管理、「 収集・活用 5.10 新製品・新サー 改善と顧客満足	一頑健な設計 そ・知識の共有化 市場・客先における品質情報の ービス開発プロセスの見直し・		
	0.0 7 4 7 4 7 1 7 1 7 1 7 1	0.4713×111 AVI / C/			

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

	プロセス保証の基本		アーカイブ	
コース概要	「品質をプロセスで作り込む」を効果的に実施するためのプロセス保証の基本を学びます。			
参加対象者	全般			
講師	永原 賢造	視聴時間	3時間	
ノロクラム	1. 品質保証におけるプロセス保証の役割 2. 生産・提供のプロセス保証の役割 3. 標準化 4. 工程能力の調査・改善	5.トラブル予測・未然 6.検査・確認 7.工程異常への対応 8.プロセス保証の進め		

62

S-25	問題解決の手順		アーカイブ
コース概要	問題解決の手順とコツを学びます。		
参加対象者	全般		
講師	松田 啓寿	視聴時間	3時間
プログラム	「問題解決の手順」が提案された経過 →手順がないと困ること 管理図では実現できないのはナニか	問題解決を運用する際 →良品条件のアップテ プロセスの熟成、デー	-
ラ エノデレンエ	4 (7 BB +B TT 4V)		

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-26 ヒューマンファクター視点による リスクマネジメント

アーカイブ

	l			
コース概要	不祥事の要因とされるリスク概要とヒューマンファクター視点による管理(リスクマネジメント)を示す。			
参加対象者	全般			
講師	渡辺 顯	視聴時間	3時間	
プログラム	1 業務におけるリスク 2 ヒューマンファクター 3 M-SHELモデル (ヒューマンファクターモデル) 4 ヒューマンエラー	5 リスクとリスク・マ 6 ハラスメントとリフ 7 安全文化と組織安全 8 リスク・マネジメン	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-27 マネージャーに聞いてほしい PDCA 指導のポイント

アーカイブ

コース概要	部下に効果的にPDCAを指導したいときに押さえておきたいポイントを学びます。			
参加対象者	マネージャー			
講師	光藤 義郎 視聴時間 3時間			
プログラム	1. PDCAの考え方 2. PDCAの進め方	3. まとめに代えて		

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

S-28

身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 電子産業におけるFSD管理技術

アーカイブ

	电)注来で4017~9~000 日本次間				
コース概要	不快な現象から重大な部品損傷まで広く影響する静電気のメカニズムを理解し、半導体製造、基板実装、電子機 器運用における、より快適で安全な製造環境構築手段を学びます。				
参加対象者	全般				
講師	塩野 登	視聴時間	3時間		
プログラム	Part I. 身近な静電気放電(ESD) による不具合現象 ・静電気放電(ESD) はどのようにして発生する か? ・静電気により、各種産業界でどのような不具合が 起こっているか?	その耐性は?			

アーカイブセミナー 1年間視聴可能

J-Hiroba セミナー 全10コース

【J-Hiroba受講の際の注意事項】

- ①J-Hirobaセミナーではグループワークがある為、事前に班編成を行います。 その為、やむを得ない場合を除き、基本的に当日の欠席はご遠慮ください。
- ②カメラとマイクの使用が必須となります。

PC環境の問題でカメラ・マイクの使用が難しい方は、恐れ入りますがキャンセル扱いとさせていただきます。予めご了承ください。

また、事前にZoomの操作マニュアルの確認、接続・音声・マイクのチェックを必ず行ってください。

③一人一端末にてご受講をお願い致します。

同組織内の受講者で同じ部屋を共有する場合、音声ハウリング防止の為、個別の会場を使用していただくか、イヤホンマイクをご使用ください。

- ④本セミナーは【カメラオン(顔出し)】での参加が必須となります。
- 原則マイクはオフ【ミュート設定】にしてください。講師の指示により、オン・オフを切り替えていただきます。
- ⑤開催時間10時~16時まで必ず通してご受講ください。
- ※途中の入退室はご遠慮ください。

【キャンセル待ちについて】

J-Hirobaセミナーは大変人気のあるセミナーのため、早期に定員に達する可能性があります。 キャンセル待ちご希望の場合は、J-Club事務局(メール:j-club@juse.or.jp)までご連絡ください。

「聞き出す力(インタビュースキル)」養成基礎講座 ~内部監査の面談を想定した実践ロールプレイ~

	•			
参加対象者	●内部監査員 ●ISO推進事務局等 ●内部監査に関わる方			
コース概要	インタビューは情報収集のための重要な手段であり、対面等を通じてその場の状況及び被監査者に合わせて臨機応変に対処する必要がありますが、監査員のアプローチ次第ではうまく進まず、適切な結果を残せない場合があります。本講座では、JISQ19011附属書A「A.17インタビューの実施」の考慮事項9項目をベースに、インタビューに関連するカウンセリング専門技法や内部監査の面談を想定したロールプレイ等を体感し、内部監査における良好なコミュニケーションの方法を学びます。			
プログラム	① 内部監査コミュニケーションについて ③ 「聞き出す力」 ② 人に与える「印象」について知る ④ 内部監査の面		を学ぶ 談を想定したロールプレイ演習	
予定講師	浅川 浩	定員		15名
D#	開催日	時間 10:00~16:00		申込締切日
日程	2025年5月28日 (水)			2025年5月20日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶インタビューにおける技法だけでなく、講師の方の経験からくるノウハウなども入れつつ講義いただき大変勉強になりました。
- ▶ロールプレイ実習を経験することがとても刺激になりました。また、具体的な設定のもとに、他の方の監査員としての話の進め方を目にすることができて、大変勉強 になりました。
- ▶アイスブレイクで相手の緊張を解く方法や、二つの技法で相手の会話を促す方法を学べたことが大変よかった。

「伝達する力(プレゼンスキル)」養成基礎講座 ~プレゼンの3つの視点と自己紹介を題材にした実践演習~

コミュニケーションスキル

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	コミュニケーションスキルの中において非常に重要な部分を占めるのがプレゼンスキルです。ビジネスにおいては、1対1の面談、会議での発表、非常に多くの聴衆の面前でのプレゼンテーション等、様々な場面においてプレゼンスキルを発揮することが必要となります。本講座では、プレゼン時に誰もが必ず行う「自己紹介」を題材にした演習を通して自己理解を深め、プレゼンのスキルアップを目指します。			
プログラム	① プレゼンテーションの定義 ④ プレゼンを成功 ② 3つの視点を知る(自己・聞き手・場面) ⑤ 自己紹介プレゼンの実践ポイント			功に導くフィジカルスキル ゼンの実践と講評
予定講師	浅川 浩		定員	8名
日程	開催日	開催日時間		申込締切日
口任	2025年6月25日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年6月17日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークあり	パソ		1人1台

※個人ワーク後、マイク等で発表いただく場合がございます。

VOICE 参加者の声

- ▶プレゼンの練習や具体的なアドバイスを頂けてとても勉強になりました。
- ▶受講内容(項目)に対して自己評価がしっかり行える。 他の方の発表を参考に良い部分や自分に不足している事項がよくわかる。
- ▶皆様の自己紹介を聞き、自分に足りないところに気づくことができました。また、自己理解の大切さがどれだけ大切か実感しました。

H-3

「傾聴する力(アクティブリスニングスキル)」

~傾聴による関係の構築と基本技法の理解~

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	今や傾聴は職場内コミュニケーションにおいても必須のスキルです。しかし実際には相手の話を最後迄聞かず、本心を理解しないままに解釈して問題を解決しようとしたり、評価的、高圧的な態度で関係を壊してしまったなどという経験をされた方もいるかと思います。本講座では、心理学やカウンセリングの専門技法等も参考に「傾聴力」を学び、あらゆるビジネスシーンで活用出来るようになることを目指します。			
プログラム	① 傾聴とは何か ② カウンセリングにおける傾聴技法 ③ 対応が困難な部下へのアプローチ方法 ④ 傾聴技法等を活用したロールプレイ実習			
予定講師	浅川 浩		定員	15名
日程	開催日		時間	申込締切日
口任	2025年7月16日 (水)	6日 (水) 10:00 ~ 16:00		2025年7月8日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶グループワークがあることで、講義だけでなく実践で役立つ具体的な方法を学ぶことができた。
- ▶講師からの講評では良いことだけでなく、こうしたらもっと良いという内容を、姿勢や表情などオンラインならではの事も確認できて大変役立つ内容だった。
- ▶メモを取らずに話し手の内容を正確に伝える難しさ、簡単受容や伝え返し等を盛り込んだロープレはとても難しかったです。又、なかなか社外の人との交流が無いので、 とても刺激になりました。

「自己表現する力(アサーションスキル)」

コミュニケーションスキ

~アサーティブなコミュニケーションの理解と実践~

*****	プランフ 八甲ス の十人 fin			
参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	アサーションは「適切な自己表現」と訳されるコミュニケーションの方法の一つです。組織内においては役職やしがらみが影響し、意見を主張できなかったり、反対に攻撃的になってしまうことがあります。本講座では「アサーション」の基本知識や手法を学び、実践演習を行うことにより、アサーティブなコミュニケーションを職場内で活用出来るようになることを目指します。			
プログラム	 アサーションとは アサーションのタイプ アサーティブな表現方法 		④ DESC法を用いたアサーティブな表現⑤ DESC法を活用したロールプレイ実習	
予定講師	浅川 浩		定員	15名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2025年9月17日 (水) 10:00~		16:00	2025年9月9日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	グループワークあり		パソコンの 準備	1人1台
ルギョ プロ b がまじょうよいビデエ → / b はロマのかわじン/(Cl. b. l. b. r. b.)				

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶グループワークやロールプレイを通じて、参加者の方々の意見や考えを聞く事ができ、考え方の幅が拡がり、また自己理解も進みました。▶世代の異なる方と意見交換ができ非常に有意義だった。 自分の意見を相手に配慮しながら伝える方法について意見交換する中で新たな気づきもあり大変よかった。▶初めて知った概念だったので期待以上に良かったと思います。DESC法というツールを活用することで会話するときストレスが低減できると思いました。また、今後 も自己評価のできる基準を学べたと思います。

H-5 「論理的なコミュニケーション」養成基礎講座 ~ロジカルに話す力の基礎を学びフレームワークで強化する~

コミュニケーションスキル

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	日本はハイコンテクストな国として知られ、「空気を読む」、「あうんの呼吸」などはその典型例と言えます。このような対応は素晴らしい面もありますが、論理性に乏しいと言われる側面もあり、多様性を重視する昨今、デメリットとなる場面も増えています。本講座では論理的な対応を行う上での課題や関連する基礎知識、また論理的に話す際に有効と言われるPREP法等のフレームワークを学び、職場内で活用出来るようになることを目指します。			
プログラム	① ハイコンテクスト文化とコミュニケーション ③ 論理性を実現するフレームワーク ② 論理的対応を行う上での課題と基礎知識 ④ 論理的なコミュニケーション実習			
予定講師	浅川 浩		定員	16名
n#	開催日		時間	申込締切日
口任	2025年10月15日 (水) 10:0		16:00	2025年10月7日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶ワークもよかったのですが、改めて論理的コミュニケーションを行う上での課題を整理していただけたことが良かったです。
- ▶職場環境の変化に対応するコミュニケーションの取り方には、論理的に話す力を付けていかなければならない中、今回のご講義で3つのフレームワークを学べたこと や再認識できたこと。
- ▶普段業務の中で直面するシーンで活用できる内容でした。受講前の知識では対応できていなかった事項が自己分析できて良かった。

H-6 「セカンドキャリアデザイン」養成基礎講座 ~人生100年時代における後半戦のキャリアデザイン~

コミュニケーションスキル
オンライン

参加対象者	ビジネス分野の方全般(特に中高年のセカンドキャリアを検討したい方を推奨)			
コース概要	人生100年時代の今、これからの長い将来について深く考えなくてはならないとは思いながらも先延ばしにしたり、整理できていないという方も数多くおられます。本講座では、厚生労働省で開発されたキャリア技法や、有名なキャリア理論に基づいて作成したセカンドキャリアデザインツールをご紹介し、実際に体感していただくことにより、新たな気付きや今後のキャリアを明確にする一助になることを目指します。			
プログラム	1. 自己理解:入社から現在に至るキャリアについて 2. 未来の自分を知る①:ライフキャリアレインボー		3. 人生100年時代の環境を理解する 4. 未来の自分を知る②:タイムマシンで未来を知る	
予定講師	浅川 浩		定員	16名
D40	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年11月12日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年11月4日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▼ TCL 参加者の声 ▶なかなかこの先の人生設計について考える機会がなかったので、いいきっかけになったと思います。
- ▶キャリアデザインという言葉をイメージすることがなかったので、今回の講習で概要を理解出来で良かったと感じました。また、この講習を今後も活用していければと思いました。
- ▶今後のキャリアデザインについてこのような研修を受ける前は真剣に考えたことがなくとても為になりました。特に同年代や先輩方の考えについてお伺いできたことがとても参考になりました。

H-7

「セルフマネジメント」養成基礎講座 ~確実な成果を上げるために必要なこと~

ユミューケーフョノスイル -**ユ**ト、ニ ノト、

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	「セルフマネジメント」とは、個人や組織の目標に対して、成果を上げるために必要となる要素を、自らマネジメントすることと定義します。本講座では、自己のスタイルや心のしくみ、また目標に対して確実な成果を上げるための具体的な手法を学び、ビジネスシーンだけでなく日常生活全般においても活用できるようになることを目指します。			
プログラム	① セルフマネジメントとは ③ 自己の心のして ② 自己のスタイルを知る ④ ビジョン達成の		くみを知る のための具体的手法	
予定講師	浅川 浩		定員	16名
D.40	開催日		時間	申込締切日
日程	2025年12月3日 (水)	10:00 ~	16:00	2025年11月25日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

▶自分の改善すべきポイントとどうやったら改善することができるのかが学べました。また、自分時間と他人時間についてもとても参考になりました。

▶講義の冒頭であった「セルフマネジメントといっても個人では完結しない、対人関係が重要」という事が講義が終わるころによく理解できました。

トセルフマネジメントということで、自分分析を深める場だと思っておりましたが、実際はそれプラス、グループワークを通じた他社の方々の考え方を学べる有意義な 講義の場となりました。

H-8

「アンガーマネジメント」養成基礎講座 ~心理学や心理療法等から学ぶ怒りのコントロール法~

コミュニケーションスキル

66

参加対象者	ビジネス分野の方全般				
コース概要	「アンガーマネジメント」は、「怒り」の感情を適切に自己管理し、コントロールする心理教育や心理トレーニングのことを指します。本講座では、過去に経験した怒りの感情を伴ったエピソードをピックアップしていただき、各種ワークショップを通して自分の感情や価値観等にも向き合いながら「怒り」という感情の特性やメカニズムを確認していきます。そして心理学や各種心理療法等の怒りのコントロール法を学び、ビジネスだけでなく、日常においても活用ができるようになることを目指します。				
プログラム	① アンガーマネジメントとEQについて② 感情と怒りのメカニズム③ 怒りと認知との④ 怒りのコント				
予定講師	浅川 浩		定員	16名	
日程	開催日		時間	申込締切日	
	2026年1月28日 (水)	10:00 ~	16:00	2026年1月20日 (火)	
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台	

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

VOICE 参加者の声

- ▶ 6秒ルールの継続性を高めることのできるセミナーでした。自分への気付きが実際の講義のねらいであったことも実施の後押しになります。
- >怒りの感情について、論理的に分析し、IRからRBとハードルを下げることで怒りのレベルを下げるという論理的思考はなかったため、大変勉強になりました。

ABC理論、IB→RBへの切り替えによる感情レベルの低減など、とても参考になりました。

「フォローする力(フォロワーシップ)」

~フォロワーシップスタイル診断&実践エクササイズ~

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	組織においては、必ずリーダーとフォロワーが存在します。通常、目標達成のキーパーソンとしてはリーダーが注目されますが、フォロワーが力を発揮する組織は、リーダーも活かされ、組織はますます活性化していきます。本講座では、自己診断や情報カードを用いたユニークなエクササイズ等を通して、フォロワーシップについて一緒に考え、実践で活かすことを目指します。			
プログラム				ップスタイル診断 ップエクササイズ
予定講師	浅川 浩		定員	16名
日程	開催日		時間	申込締切日
口性	2026年2月18日 (水)	18日 (水) 10:00~		2026年2月10日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。

- 毎回ですが、J-hirobaに参加すると知らなかった自分に気が付きます。今回学んだフォロワーシップについて、業務で活かしていきたいと思います。▶ TEDトークとフォロワーシップエクササイズでは大きな感動を受けました。他の方に伝える方法、他の人を引き寄せることの重要さに気づかされました。▶ エクササイズ等を通して、フォロワーの役割が思っていたより大きいこと、相互にとっても両立場での役割を理解する事が必要であることを勉強できました。

「リードする力(リーダーシップ)」養成基礎講座 ~ヨコの関係強化と権限なき新たなリーダーシップ~

コミュニケーションスキル

参加対象者	ビジネス分野の方全般			
コース概要	リーダーシップ研究の初期においては、資質を持つ特定の者だけがリーダーシップを発揮し、リーダーになれるものと考えられていました。しかし今では誰もが学ぶことによりリーダーシップを発揮できるという考え方が一般的です。また組織内の権限のある者は、従来のタテの関係からヨコの関係を意識したリーダーシップが求められ、その他の権限のない構成員も、全員がリーダーシップを発揮していくという新たな考え方も広がっています。本講座では、新たなリーダーシップの在り方について座学とエクササイズを通して学び、実践で活かすことを目指します。			
プログラム	① リーダーシップ理論の変遷 ② サーバントリーダーシップ診断		③ 権限によらないリーダーシップ④ リーダーシップエクササイズ	
予定講師	浅川 浩		定員	16名
日程	開催日		時間	申込締切日
	2026年3月11日 (水)	10:00 ~	16:00	2026年3月3日 (火)
個人ワーク・ グループワーク	個人ワークとグループワークあり		パソコンの 準備	1人1台

※グループワーク・発表があるためビデオ・マイク使用での参加が必須となります。



事例検索サービス(J-ナレッジ)2025年版の【ログインID・PW】は、 2025年4月1日よりJ-Clubサイトに掲載させていただきます。

https://www.juse.jp/j-club/knowledge/



J-ナレッジは動画配信ではなく、PDFデータでのご提供となります。

J-ナレッジ(検索サービス)の申込方法

下記URLよりログインしてください。

https://www.juse.jp/j-club/knowledge/

J-Clubサイトに掲載の【ログインID·PW】にてログインください。

J-ナレッジとは

日科技連では毎年多くのフォーラム、シンポジウム、大会を開催しており、数多くの事例発表がされております。 「J-ナレッジ」は、各イベントで発表された貴重な事例を検索できる新サービスです。

ISO審査登録センター 登録組織様へ無料で提供いたします。

「工程改善」、「コストダウン」、「人材育成」、「ISOの運用」、「QCサークル」等々、様々なキーワードで検索して、 お目当ての事例を閲覧いただけます。

セミナー担当講師紹介(敬称略)

J-Club マネジメント

●越山 卓

日科技連ISO審査登録センター 元 品質・環境審査室 室長 (QMS主任審査員/EMS主任審査員)

ISO 9001 (QMS) 概要解説コース はじめてのISO 9001

「設計・開発」の捉え方と柔軟な運用

- ・実務者向けQMS短編集(その1) -製造-・実務者向けQMS短編集(その2) -サービス-
- ・品質工学 パラメータ設計 ・品質工学 (タグチメソッド) 概要解説コース

●福丸 典芳

福丸マネジメントテクノ 代表

経営管理とMS規格(箇条4:組織の状況)の本質

日科技連審査員 (QMS/EMS/RTSMS)

- ハース
 内部監査報告書の書き方と調べ方 [ISO 9001]
- 実のあるマネジメントシステム活動とするために 「リスク及び機会」の正しい捉え方と「技術の伝承」の
- たんが 形式的になりがちなマネジメントシステムの"3つのくせ者"実効性からの再考~力量、文書化、目標~ 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」
- 購買・外注部門の主な機能とISO要求事項 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」
- 1時間で分かる「業務内容とISO要求事項」 営業・企画部門の主な機能とISO要求事項
- マネジメントシステムのスリム化セミナ

●高橋 邦雄

日科技連ISO審査登録センター 審査部 品質·環境·労安審查室 技術顧問

【担当】

- ISO 14001 (FMS) 概要解説コース
- ・環境法規制管理のポイント ・はじめてのISO 14001
- · ISO 45001 (OHSMS) 概要解説コース

●村上 治

日科技連ISO審査登録センター 元情報セキュリティ審査室 室長

· 自動車CSMS ISO/SAE 21434対応

- JIS Q 27001:2023に基づく ISMS内部監査員研修
- ・QMS/EMS認証組織のための情報セキュリティ入門・ISO/IEC27002:2022 情報セキュリティ管理策の解説
- リスクマネジメントの基本
- RCPの基本

●島袋 千恵子 日科技連ISO審査登録センター

食品安全審査室

ISO 22000・FSSC 22000概要解説コース 食品安全マネジメントシステム内部監査実践コース

日科技連ISO審査登録センター 品質・環境・労安審査室

【担当】

_____ どうされていますか?食品の微生物検査(初級編)

~ 適切な検査計画のために~ ・ 振り返ってみましょう! 食品の微生物検査 ~検査結果の正しい理解のために~

●谷口 あゆみ

日科技連ISO審査登録センター 食品安全審查室

17日 ヨノ・ ・食品工場の新人教育 ・食品安全規格等の基礎知識:60 分シリーズ キホンの「キ」

コンプライアンス担当が見た食品売り場 (食品表示、栄養表示、優良誤認など)

●見冨 信祐

日科技連ISO審査登録センター 食品安全審査室

- 初めて表示に携わる方の表示の見方・作り方

日科技連ISO審査登録センター 元 食品安全審査室 室長

【担当】

- 実務に取り込むISO 22000: 2018
- · 必修!基礎から学ぶ食品衛生① · 必修!基礎から学ぶ食品衛生②

●玉置 知也 日科技連ISO審査登録センター

食品安全審查室

担 ヨ』 食品安全規格等の基礎知識:60分シリーズ(キホンの「キ)

JRCA登録 ISMS主任審査員/QMS主任審査員

【担 当】 ・ISO/IEC 27001 (ISMS) 概要解説コース

●吉田 哲也

日科技連ISO審査登録センター 情報セキュリティ審査室 【担 当】 ・ISMSクラウドセキュリティ (ISMS-CS) 概要解説コース

●吉岡 努

日科技連ISO審査登録センター 情報セキュリティ審査室 室長

【担 当】
・ ISO/IEC27001:2022規格改正移行説明会
・ ブライバシー情報マネジメントシステム (ISMS - PIMS) について

●横沢 俊一 日科技連ISO審査登録センター 元審査技術開発室 室長

- 【担当】 ・わかりやすいプロセスアプローチ基礎解説コース ・プロセス・マップの作成基礎コース ・内部監査員養成コース
- 有効な是正処置 具体事例をもとに考える

●丸山 昇

JRCA登録 QMS主任審査員/EMS主任審査員

【担当】
・TQM視点でマネジメントシステム強化と内部監査コース・効果的な是正処置方法とヒューマンエラー対策コース

●高木 美作恵

クリエイティブマインド 代表

【担当】 ・新QC七つ道具概要解説コース

●福島 伸

人事・人材開発、組織開発コンサルタント 【担当】

- 担 ヨ】 チームメンバーからチームリーダーへ (3 ~ 5年目社員研修)
- (0 つうから社会が)を) 10n1ミーディングの進め方 ・日本型ワーク・エンゲージメントを考える ・ハラスメント防止(管理職向け)

特定社会保険労務士、ISO9001主任審査員 ISO14001主任審査員

[担 当』 ・今日作って、明日から使う カンタンすぎる人事評価制度セミナー

●三浦 才幸

株式会社DWAYS代表取締役

【担 当】 ・サステナブルな人的マネジメント

●岩松 正治 岩松企画、AGC株式会社勤務

【担 当】 · 失敗学入門編

●木内 正光

玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授

●丹澤 一昭 日本VE協会(VE基礎講座主任講師·編集委員) 日本科学技術連盟 (運営委員・講師) 日本管理会計学会 (会員) 国際バリュー・スペシャリスト、中小企業診断士 【担 当】 ・VE研修 (1日コース)

●加藤 洋一

(一財) 日本科学技術連盟 嘱託

【担 当】 ・品質管理の基本

品質保証の基本

●恵畑 聡 品質創研 代表

- 問題解決の基本 やさしいQC手法2(新QC七つ道具)
- 煙準化の其木 標準化と日常管理

●藤田 敬泰

㈱荏原エリオット 【担 当】 ・データのとり方・まとめ方

●村川 賢司

村川技術士事務所 代表 【担当】

- 日常管理の基本 方針管理の基本
- ●岡田 高美

(一財) 日本科学技術連盟 嘱託

【担 当】

・はじめての小集団改善活動 ・はじめてのQCサークル推進者

品質管理教育の進め方

●鈴木 和幸 電気通信大学 名誉教授

【担 当】 ・未然防止の基本

●渡辺 顕

日本ヒューマンファクター研究所

【担 当】 品質とヒューマンファクター ・ ヒューマンファクター視点によるリスクマネジメント

●石川 朋雄

企画システムコンサルティング 代表取締役

【担当】 ・商品企画七つ道具の基礎

・はじめての発想法

●長島 牧人

オフィス・N 代表 【担当】

事業戦略立案 ●伊藤 和憲

専修大学 商学部 教授

【担当】

コストマネジメントの基本

●光藤 義郎 (一財) 日本科学技術連盟 嘱託

【担 当】

・管理の考え方と進め方 ・TQMの基本 · マネージャーに聞いてほしいPDCA指導のポイント

●永原 賢造 プロセスマネジメントテクノ 代表

| 頭客価値を創造するマネージャーの役割と行動 新製品・新サービスの開発管理の基本

プロセス保証の基本

●松田 啓寿 (一財) 日本科学技術連盟 嘱託

【担 当】 ・問題解決の手順

●塩野 登 日本電子部品信頼性センター (RCJ)

身近な静電気放電(ESD)による不具合現象と 電子産業におけるESD管理技術

●神田 良

明治学院大学 経済学部 名誉教授

【担当】 戦略的リスクマネジメント概論

戦略型リーダーになるための経営戦略論

●近藤 明人 麗澤大学 経営学部 教授 学部長

【担当】

- マネジメントシステム運用に有効な
- KPIの設定とその管理 持続可能な調達に必要なマネジメント(入門編)
- SDGs入門編: SDGsの概要を学ぶ
- 持続可能なマネジメントシステムと バリューチェーン統合による気候変動対応

●浅川 浩

株式会社トータルバランスマネジメント 代表

中小企業診断士 公認内部監査人 (CIA) 公認心理師 1級キャリアコンサルティング技能士 産業カウンセラー

【担当】

______ 「聞き出す力(インタビュースキル)」養成基礎講座

- 「伝達する力 (プレゼンスキル)」養成基礎講座 「傾聴する力 (アクティブリスニングスキル)」養成基
- ・「自己表現する力(アサーションスキル)」養成基礎講
- .__ ・「論理的なコミュニケーション」養成基礎講座
- ・「セカンドキャリアデザイン」養成基礎講座
- 「セルフマネジメント」養成基礎講座 ・「アンガーマネジメント」養成基礎講座
- ・「フォローする力(フォロワーシップ)」養成基礎講座 ・「リードする力(リーダーシップ)」養成基礎講座

日科技連ISO審査登録センターのオペレーションサービスについて

当センターでは、1組織1担当制として、認証組織様1組織につき1名の専属担当者(登録業務課)での 体制で、認証組織の窓口担当者様と、日々のコミュニケーションを図りながら、組織様に寄り添った対応を

させていただいております。

- 例:1.審査における提出資料のご案内及び受領窓口
 - 2. 審査スケジュールのご相談窓口 3. ISOに関する日常的なご相談窓口
 - 4. 審査における疑問点の問い合わせ窓口
 - 5. 見積書、請求書送付窓口
 - 6. 登録マーク使用申請窓口 7. マネジメントシステムの変更に関するご相談窓口
 - 8. 最終報告書、登録証送付窓口

各組織の窓口担当者様は、審査における疑問点や不安点がありました際には、当センターの担当者へ直接 ご連絡いただくことにより、スムーズな問題解決に繋がるよう日々努めております。

これは他の認証機関ではあまり類を見ないオペレーションサービスです。

当センターの担当者は、スムーズに認証組織様が審査を受けていただけるよう、今後も鋭意努力して参り ますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。